

各地区まちづくり団体との ワークショップ等の結果について

平成31年 3月

いわき市都市建設部都市計画課



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

- (1) ワークショップ等の概要 . . . P 2
- (2) 講演会での主な意見（いわき商工会議所地域振興委員会及びいわき政策塾） . . . P 3
- (3) ワークショップでの主な意見（小名浜まちづくり市民会議） . . . P 4
- (4) ワークショップでの主な意見（内郷まちづくり市民会議） . . . P10
- (5) ワークショップでの主な意見（勿来ひと・まち未来会議） . . . P16
- (6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議） . . . P20
- (7) 各支所等で実施したポスター掲示の概要 . . . P26
- (8) イオンモールいわき小名浜で実施したポスターセッションの概要 . . . P26

2. 各地区まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

- (1) アンケート調査の概要 . . . P27
- (2) アンケート調査の結果 . . . P28

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(1) ワークショップ等の概要

本ワークショップは、*平地区（中心市街地）及び各地区まちづくり計画協定締結5団体を対象とし、主に各地区の市街地の課題や将来の展望などについて意見交換を行いながら、今後、都市（市街地）の再生を図ることを目的に実施した。 ※平地区においては、講演形式で実施。

【ワークショップ実施結果】

○ 対 象：平地区 いわき商工会議所地域振興委員会及びいわき政策塾

○ 開催日：平成30年9月26日（水）

○ 参加者：16名

○ 対 象：小名浜まちづくり市民会議

○ 開催日：平成30年9月27日（木）

○ 参加者：17名

○ 対 象：内郷まちづくり市民会議

○ 開催日：平成30年10月25日（木）

○ 参加者：19名

○ 対 象：勿来ひと・まち未来会議

○ 開催日：平成30年12月10日（月）

○ 参加者：12名

○ 対 象：四倉ふれあい市民会議

○ 開催日：平成31年1月17日（木）

○ 参加者：17名

●ワークショッププログラム

step 1 地区の課題や展望を話し合おう(15分)

step 2 必要な機能（施設）を配置しよう（25分）

step 3 発表を準備しよう（10分）



平地区での講演（政策塾）の様子



小名浜地区でのワークショップの様子



内郷地区でのワークショップの様子



南部地区でのワークショップの様子



四倉地区でのワークショップの様子

○ 常磐地区は、平成29年7月に「常磐湯本地区まちづくり計画」を改訂しており、当該改定にあたっては、平成27年6月より地元まちづくり団体を中心に、多くのワークショップ等を重ねてきた経過がある。また、平成30年度より、湯本駅前緑地の利活用に係る協議を、地元まちづくり団体と協働で進めているなど、地域の意向等は十分に把握できていることから、今後の事業進捗等の状況により開催することとした。

(2) 講演会での主な意見（いわき商工会議所地域振興委員会及びいわき政策塾）

● 講演内容

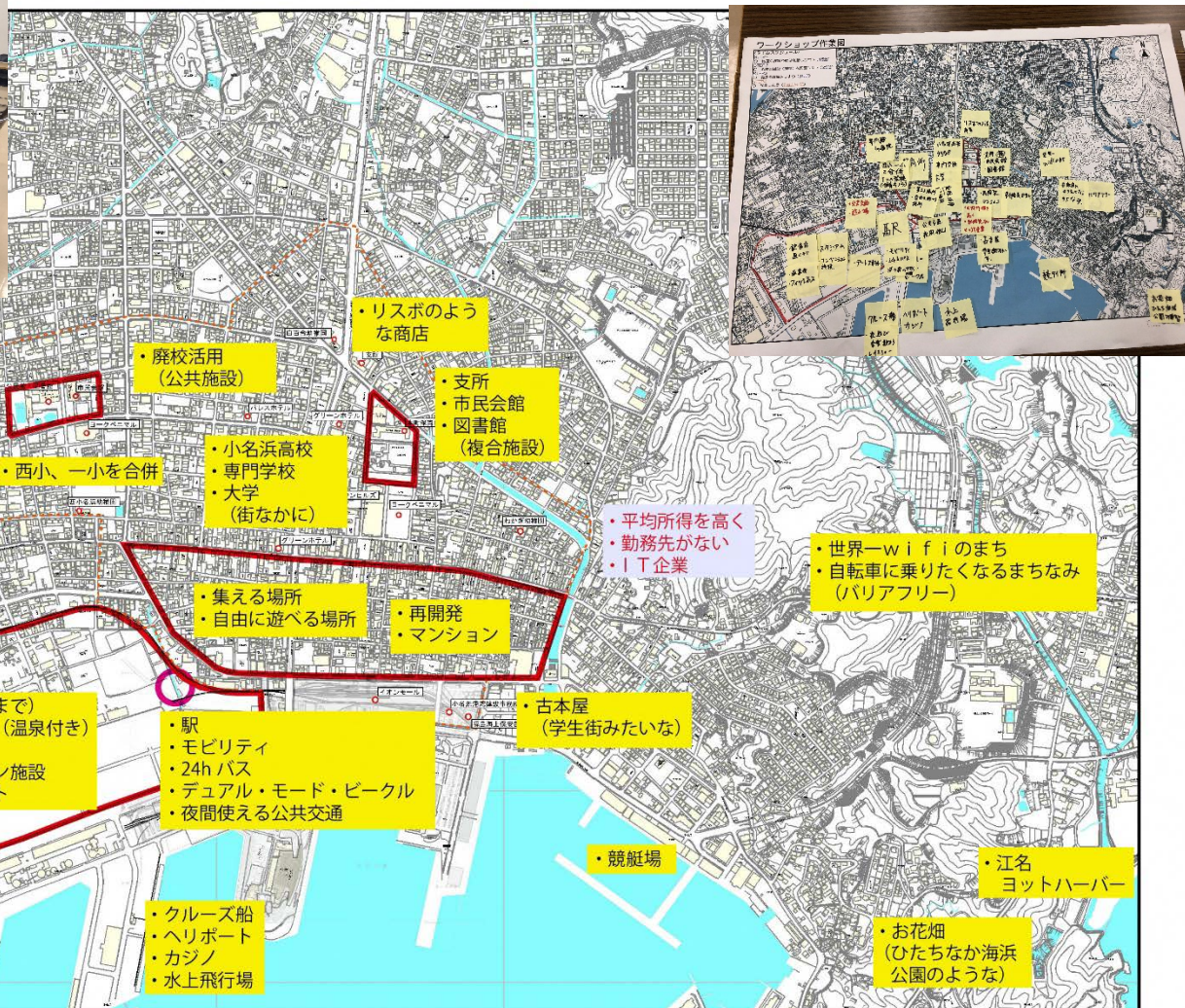
- ・ いわき市の課題等について
 - * 人口減少や都市構造等の課題
- ・ 第二次都市マスの策定状況について
 - * 全体・部門別・地域別構想の概要
- ・ 立地適正化計画の策定状況について
 - * まちづくりの方針、誘導方針等の概要

分類	意見
ひと	● 説明では生産年齢人口を65歳までとしているが、今後年金支給年齢も上がるので、70歳まで年齢層に変更すべきではないか。 ● 立地適正化計画の都市機能誘導区域を見ると、合併前に戻るような気がする。若者は本当にいわきに戻るのかが疑問。
まち	● 勿来は、従来から「副都心」という位置づけのはずだったが、将来都市像の説明の中では、「平や小名浜など・・・」と表現され、“勿来”が抜けている。これまでの取り組みにおいて勿来を副都心とすることへのアプローチが薄かったことが要因ではないか。もっとがんばっていきたい。 ● 勿来は、平や小名浜とのつながりよりも、北茨城や高萩との交流があり、勿来の地域のあり方や県境を視野に入れた都市構想を考えていく必要があり、色濃く検討し、そういった内容を含むまちづくり構想をつくり、南部を強くして欲しい。 ● 2040年には23万人になる、つまり現在から10万人も人口が減少するということだが、本当に10万人が減っても耐えられる都市計画マスタープランになっているのか。 ● 居住誘導区域外の将来ビジョンは無いといけない。 ● 農村山地域や漁村地域のところは、今後、自然に人口が減っていくが、これら中山間地域や沿岸部を守るための作成計画や、他地域へ移住することの提案をするようなプランづくりを進める必要があるのではないかと。
しごと	● 中山間地域は、ITインフラが整っていないため、企業が立地できないことが課題となっているため、ITインフラを整備することが必要である。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(3) ワークショップでの主な意見 (小名浜まちづくり市民会議)

(1班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(3) ワークショップでの主な意見（小名浜まちづくり市民会議）

（1班）

地区の1番の課題は交通（モビリティ） ➡ **デュアル・モード・ビークルを走らせる。**

⇒ 小名浜地区に**駅をつくり**（FCスタジアム・商業施設・コンベンションセンター）、**福島臨海鉄道の線路**を使用し、小名浜～泉～いわき駅に向かう路線を走らせる。
その後、いわき駅から道路上（鹿島街道）を走り小名浜に戻る**循環をつくる。**

【エリア設定】

- **西側：商業施設を集約**する。
- **本町通りと八間通り（小名浜港線）を結ぶエリア**（再開発を実施）：**横町公園のエリアをパブリックなエリアにして集約**を図る。
⇒ 支所、図書館、専門学校（何らかの特化した学校：アニメーターを輩出する学校等）
- **海側（東港のエリアを含めたエリア）：夜遊びが出来る場所**にする。
⇒ クルーズ船、レイトショー、ヘリポート、カジノ、水上飛行場

【その他】

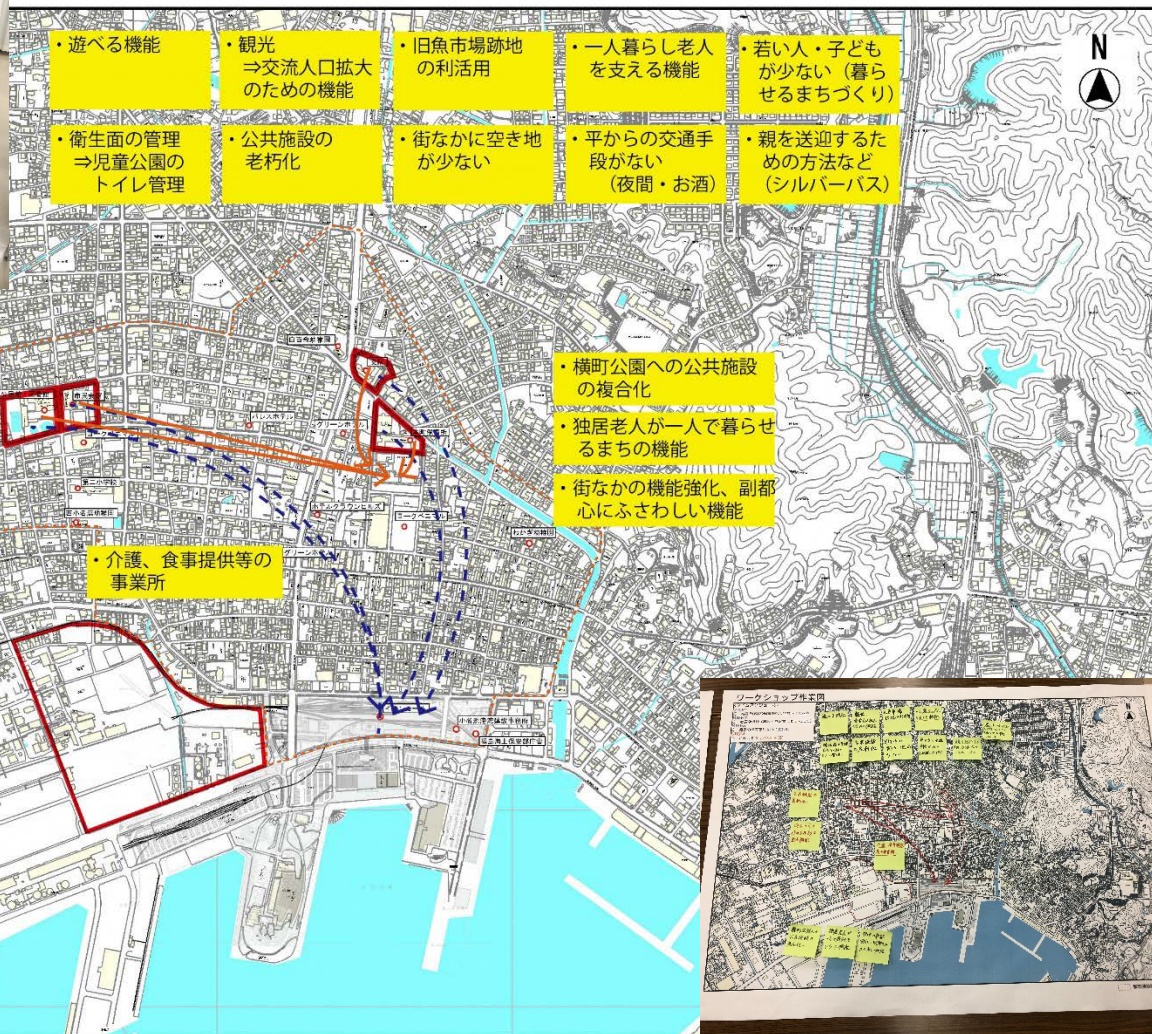
- Wi-fiが世界一つながる小名浜にする。
- 自転車に乗りたくなるまちなみにする。
- 三崎公園を花畑にする。
（ひたちなか海浜公園のようなスポットに）
- 学生街のようにする。
⇒ 西小、一小を合併し近いところに持ってくる
⇒ 小名浜高校もエリア内にもってくる
（都市機能の全てを中心に持ってくる）
- 江名を日本一のヨットハーバーにする。
- 競艇所をつくる。

➤ 実現できれば、地区内に高所得者も住むようになり、再開発のマンションに住む人も増え、**相乗効果でまちも賑わってくる。**

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(3) ワークショップでの主な意見（小名浜まちづくり市民会議）

(2班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(3) ワークショップでの主な意見（小名浜まちづくり市民会議）

(2班)

困っていること

- 支所や市民会館等、様々な公共施設が老朽化している。
- 空き地があふれている。
- 小中学生など若い人たちが少なくなっている。一方で高齢者が多くなっている。
- イオンモールが出来たのに街なかが廃れており、都市機能の維持が難しい。
- 平で飲んだら帰るのがすごく大変。

コンパクトシティってどうなんだろう・・・

- 旧市街地のあたりを区画整理で整理出来れば良いが・・・
- イオンモールに公共施設を移転・集約出来れば良いが、港に全部集めるのは良いことなのか・・・

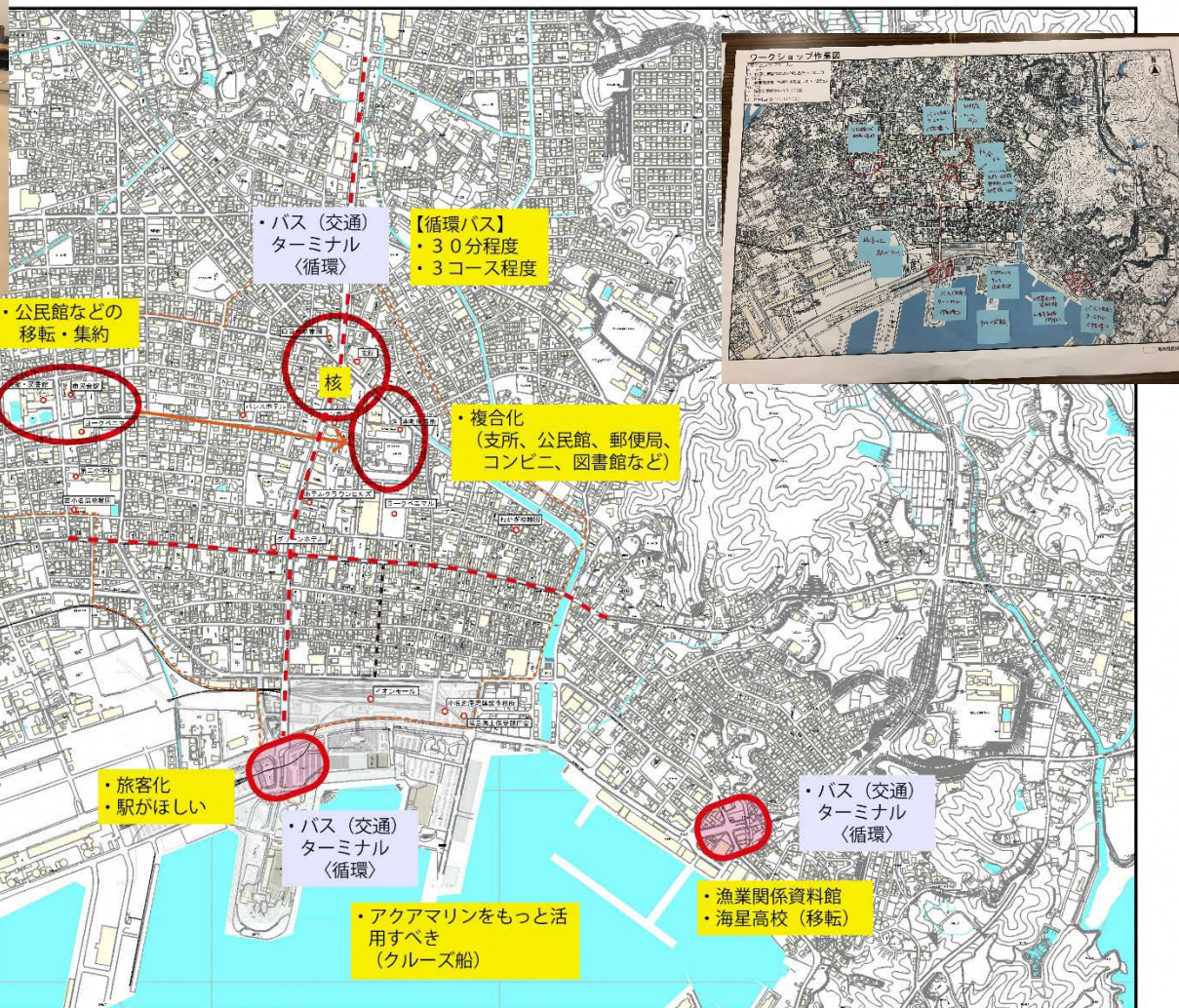
今後必要なこと

- 公共施設の再編については、街なかの空洞化防止や、独居老人の増加などを考慮し、横町公園又はイオンモールいわき小名浜に公共機能や日常生活サービス機能等の都市機能を集約する。
- 小学校等の統合に伴う跡地の活用方法を検討する。
- 循環バスにより市内を回れるようにする。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(3) ワークショップでの主な意見 (小名浜まちづくり市民会議)

(3班)



都市機能誘導区域案

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(3) ワークショップでの主な意見（小名浜まちづくり市民会議）

(3班)

小名浜には若者が集まる核が無いのが特徴（駅がない、街なかから高校が離れている）

- 横町公園に都市機能を集約（支所、公民館、郵便局、コンビニ、図書館など）する。
- 小中学校は学区があるので、街なかへの移転は厳しいが、高校は街なかに移転したい。

小名浜発祥の地は米野地区（現在は更地）

- 漁協関係の資料館、漁協のおばちゃんたちがやっている食堂（プレハブで十分）など小名浜の浜文化を発信する場所が出来れば良い。
- 海星高校の分校を持ちたい。

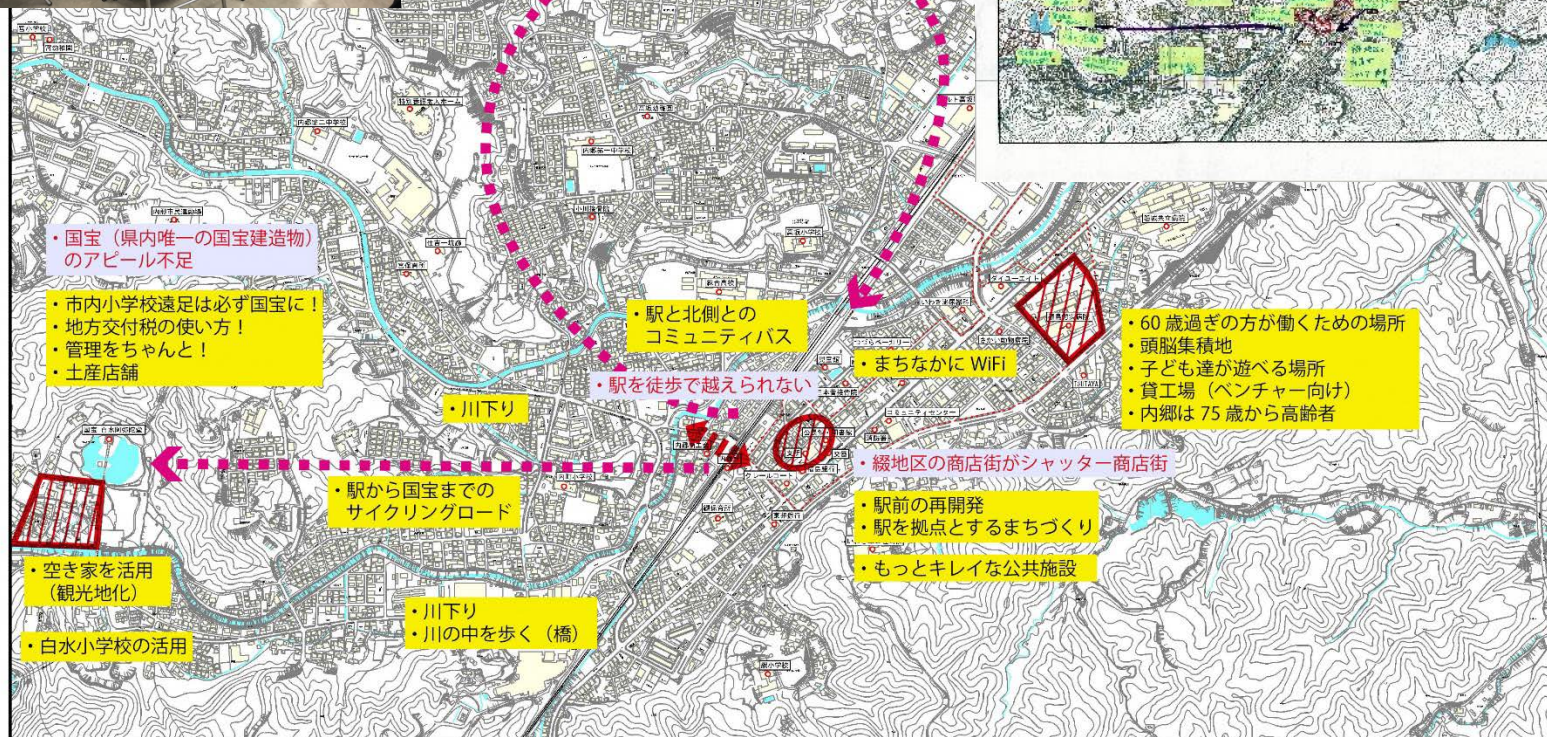
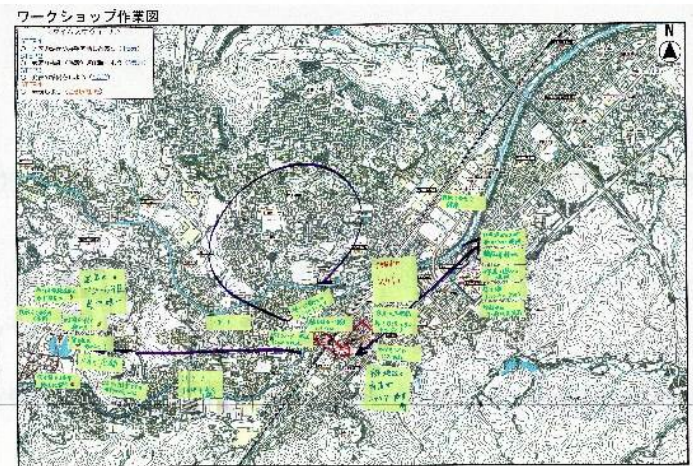
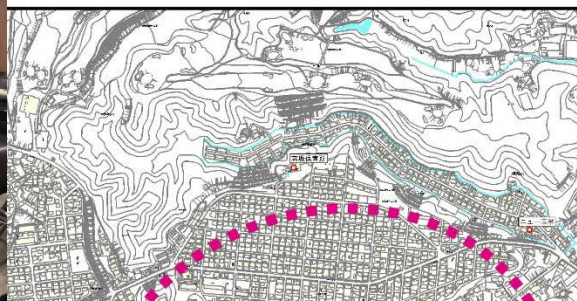
都市機能を結ぶルートが必要

- 循環バス（100円バス） ⇒ 30分程度で回れるルートをつくる。
- クルーズ船 ⇒ 小名浜の絶対的ポイントはアクアマリン。もっと活用すべき。
- 小名浜と平を結ぶ平小線
 - ⇒ 泉駅を経由して平を結ぶというルートは決して夢ではない。（小名浜の人がかつて描いた夢）
 - ⇒ 平小線があったらいわきも変わっていたし小名浜も変わっていた。
- フランチ駐車場（外縁部駐車場）
 - ⇒ 市街地外側に駐車場を設け、その中を公共交通と徒歩を結ぶ。（回遊性の向上にも寄与）

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(4) ワークショップでの主な意見 (内郷まちづくり市民会議)

(1班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(4) ワークショップでの主な意見（内郷まちづくり市民会議）

（1班）

【駅を中心とした魅力的なまちづくり】

国宝白水阿弥陀堂のアピール不足

- 市内小学校の遠足は必ず阿弥陀堂に行くようにする。
- 地方交付税の使い方をしっかりする。
- 管理をしっかりする。
- 土産店舗を整備する。
- 内郷駅から阿弥陀堂までのサイクリングロードを整備する。

福島労災病院移転跡地の有効活用

- 60歳過ぎの方が働くための場所にする（内郷は75歳から高齢者）。
- 頭脳集積地にする。
- 子ども達が遊べる場所にする。
- ベンチャー企業向けの貸工場にする。

綴地区の商店街がシャッター商店街

- 駅前再開発を行う。
- 駅を拠点としたまちづくりを進める。

駅を徒歩で越えられない課題の解消

- 駅と北側とのコミュニティバスを走らせる。
- 連絡橋を整備する。

【その他】

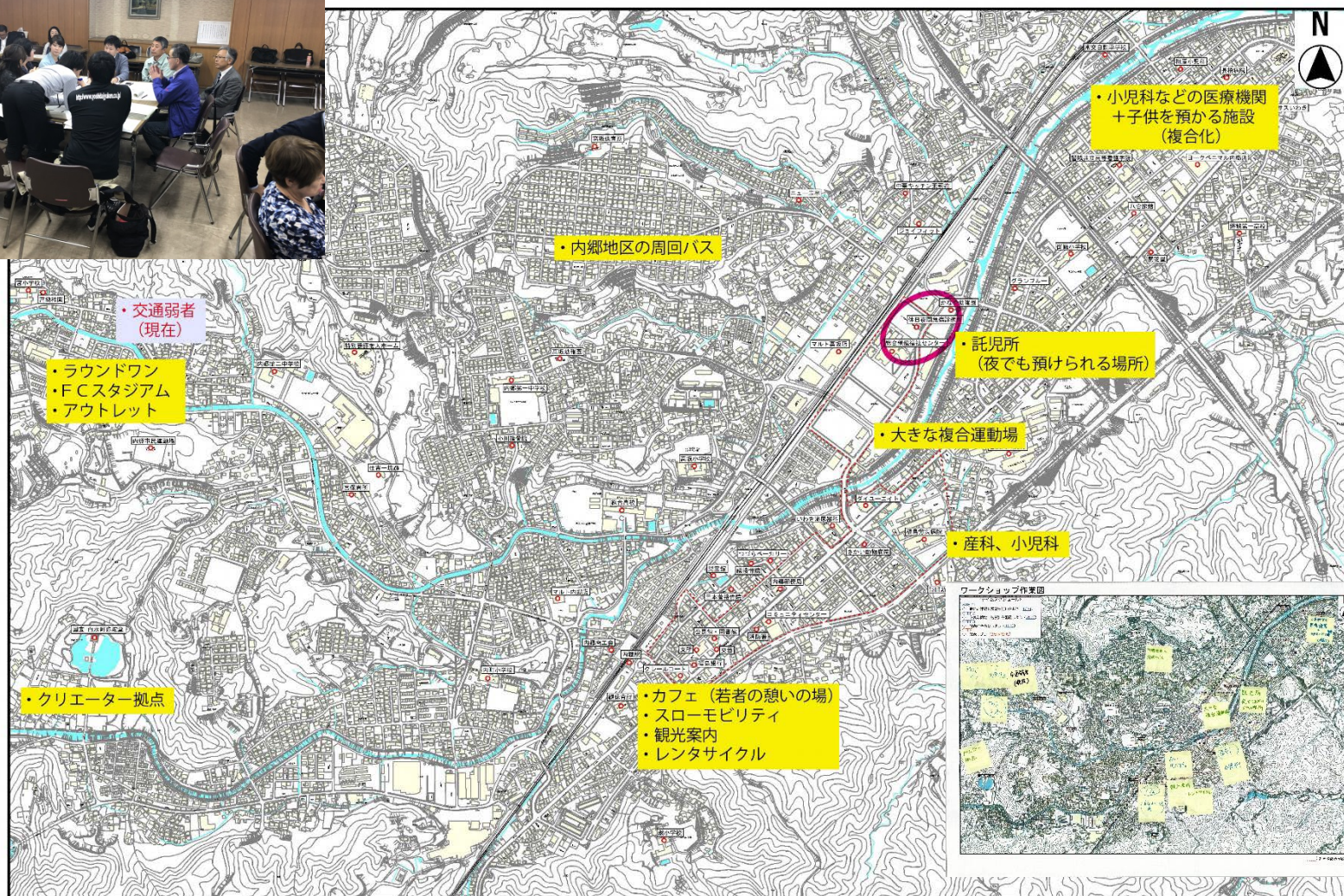
魅力向上に向けた取り組み

- まちなかにW i F iを整備する。
- 川下りを実施する。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(4) ワークショップでの主な意見 (内郷まちづくり市民会議)

(2班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(4) ワークショップでの主な意見（内郷まちづくり市民会議）

（2班）

【安心して子育てができるコンパクトなまちづくり】

内郷地区全体の課題解決

- 周回バスを走らせる。
- 小児科などの医療機関+子供を預かる施設を整備する。（複合化）
- 産科、小児科病院を誘致する。

内郷駅周辺の整備

- カフェ（若者の憩いの場）をつくる。
- 観光案内をする。
- スローモビリティを導入する。
- レンタサイクルを導入する。

みろく沢炭砒資料館の活用

- クリエーターの拠点にする。

総合保健福祉センター周辺の整備

- 託児所（夜間でも預けられる場所）を整備する。
- 大きな複合運動場を整備する。

【その他】

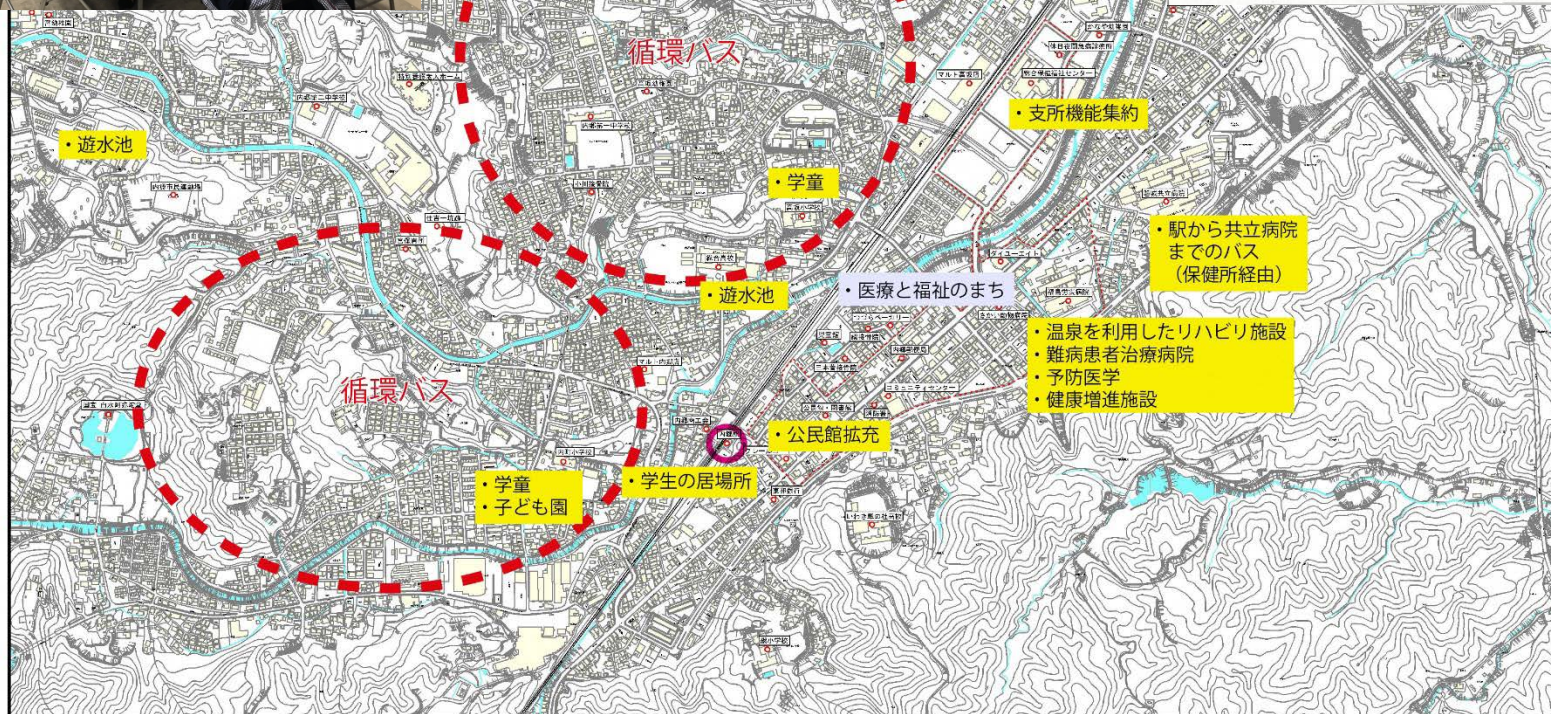
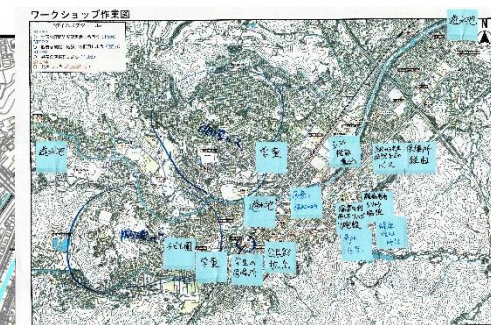
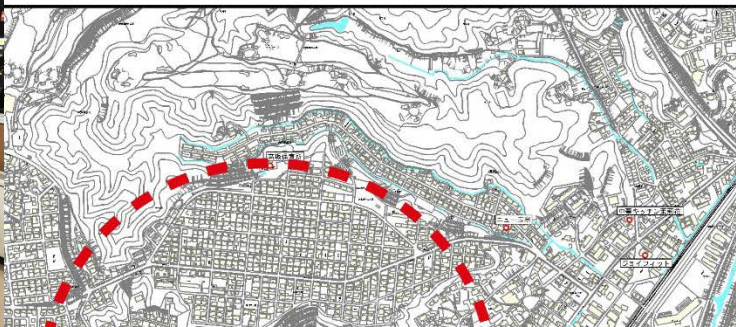
中山間地の活性化、賑わいの創出

- アウトレット、ラウンドワン、F Cスタジアムなどの大型集客施設を中山間部に誘致する。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(4) ワークショップでの主な意見（内郷まちづくり市民会議）

(3班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(4) ワークショップでの主な意見（内郷まちづくり市民会議）

（3班）

【医療と福祉のまちづくり】

福島労災病院移転跡地の有効活用

- 温泉を利用したリハビリ施設を整備する。
- 健康増進施設を整備する。
- 難病患者治療病院を整備する。
- 予防医学センターを整備する。

地域交通システムの整備

- 地区内に循環バスを走らせる。
- 駅から共立病院までのバスルート確保（保健所経由）

小学校の有効活用

- 地区内の小学校を学童保育、子ども園として活用する。

低未利用地を活用した公共施設再編

- 支所機能を保健福祉センター南側用地へ集約する。

【その他】

駅前整備

- 学生の居場所をつくる。
- 公民館を拡充する。
- 商業施設を誘致する。

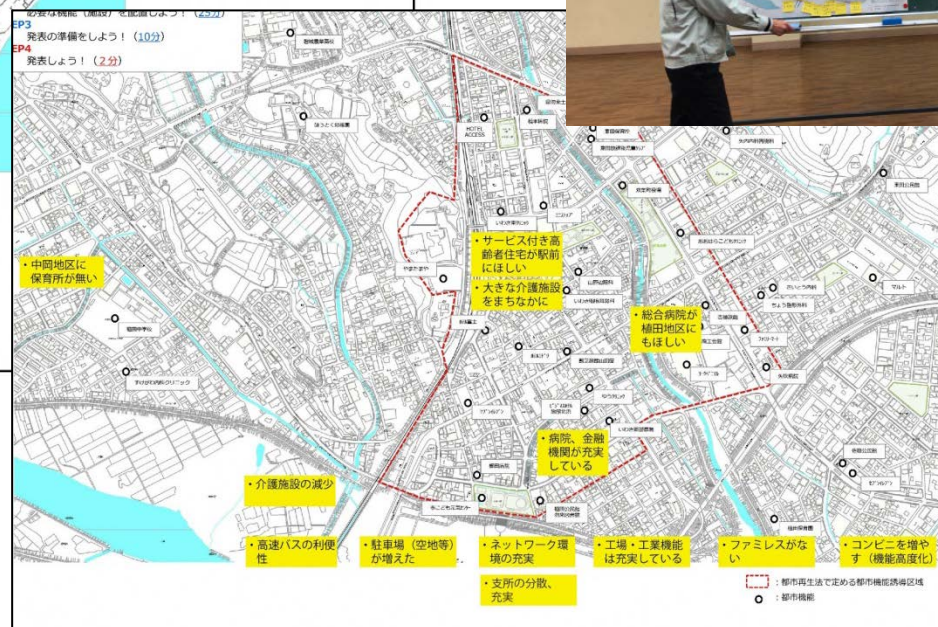
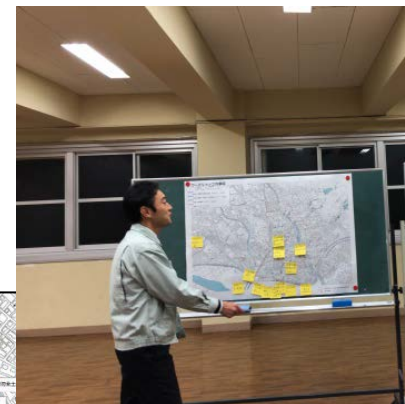
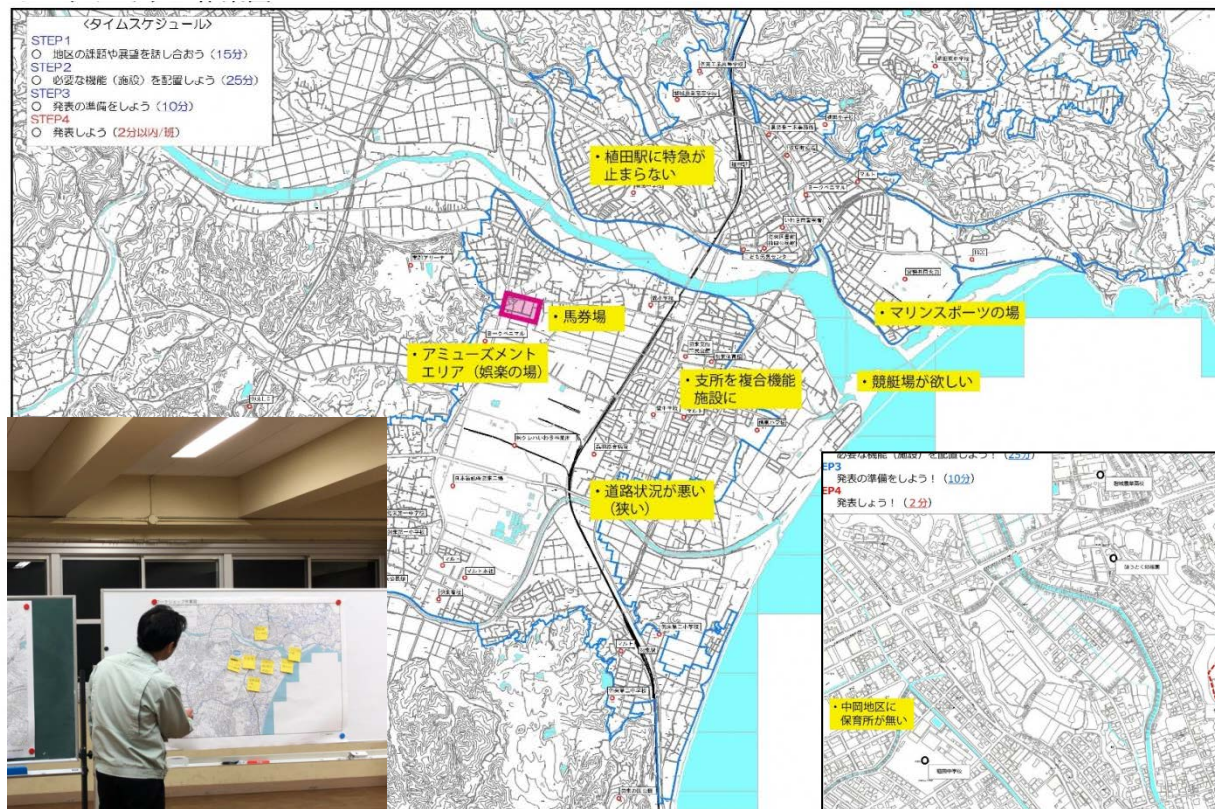
河川の活用

- 遊水池をつくる。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(5) ワークショップでの主な意見 (勿来ひと・まち未来会議)

(1班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(5) ワークショップでの主な意見（勿来ひと・まち未来会議）

（1班）

【植田駅周辺】

- 駅前に高齢者が住みやすい“サ高住”を整備、そこにコンビニや行政機能を入れるなど高齢者が暮らしやすい街をつくる。
- 南部地区は自動車を前提とした街ができている。道路ネットワークの使い方の検討が必要。
- また、常磐線の特急の停車や、高速バスの駅への乗り入れの再開（震災前同様の形）もあわせて検討する。
- 病院が点在している。集約化して残地（未利用地）の有効活用も必要。
- 支所は駅前でなくとも良い。

【勿来全体】

- 馬券場を呼び込んでくるなど大人のアミューズメントがあってもよい。
- 勿来の海はマリンスポーツの中心となれば良い。

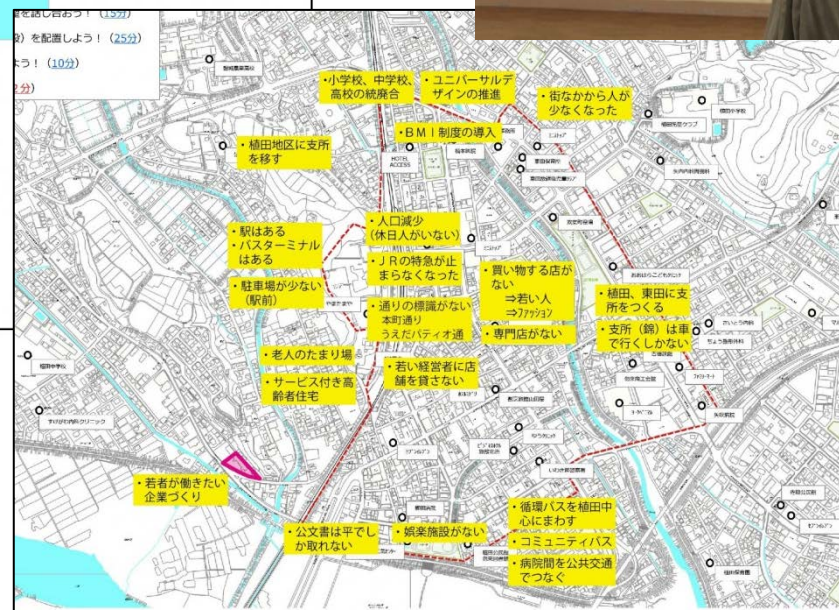
【その他】

- 支所と消防署は分離した方がよいのではないか。
- 支所建物の規模は窓口機能がしっかりしていれば、小さくなくてもよい
- Wi-Fi環境の充実が今後の社会では重要である。
- 今後の人口増加が見込めない中では、住民票受領や公共料金の支払いが可能なコンビニが存在感を発揮するため、まちづくりの視点の一つに据えるべきである。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(5) ワークショップでの主な意見（勿来ひと・まち未来会議）

(2班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(5) ワークショップでの主な意見（**勿来ひと・まち未来会議**）

（2班）

【植田駅周辺】

- 高齢者が楽しめるといったことから、高齢者が集まる場所であったり、住みやすい“サ高住”を整備など高齢者が暮らしやすい街をつくる。
- 空き店舗を活用して**若者が起業しやすいような制度**が必要ではないか。

【勿来全体】

- **支所と消防署の機能は分離し、消防署の出動のしやすさを考えるべき。**
- 支所が移転した場合、今の場所か植田駅周辺になるのかは分からないが、そこを利用する人の**利便性(モビリティ)**を考える。人が集まれば起業する若者も増え、人が集まってくる。
- 市街化調整区域の一部を解除して住宅が建てられるようにしてもよい。

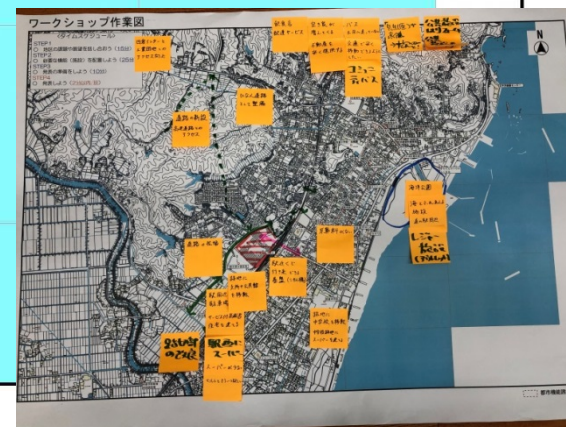
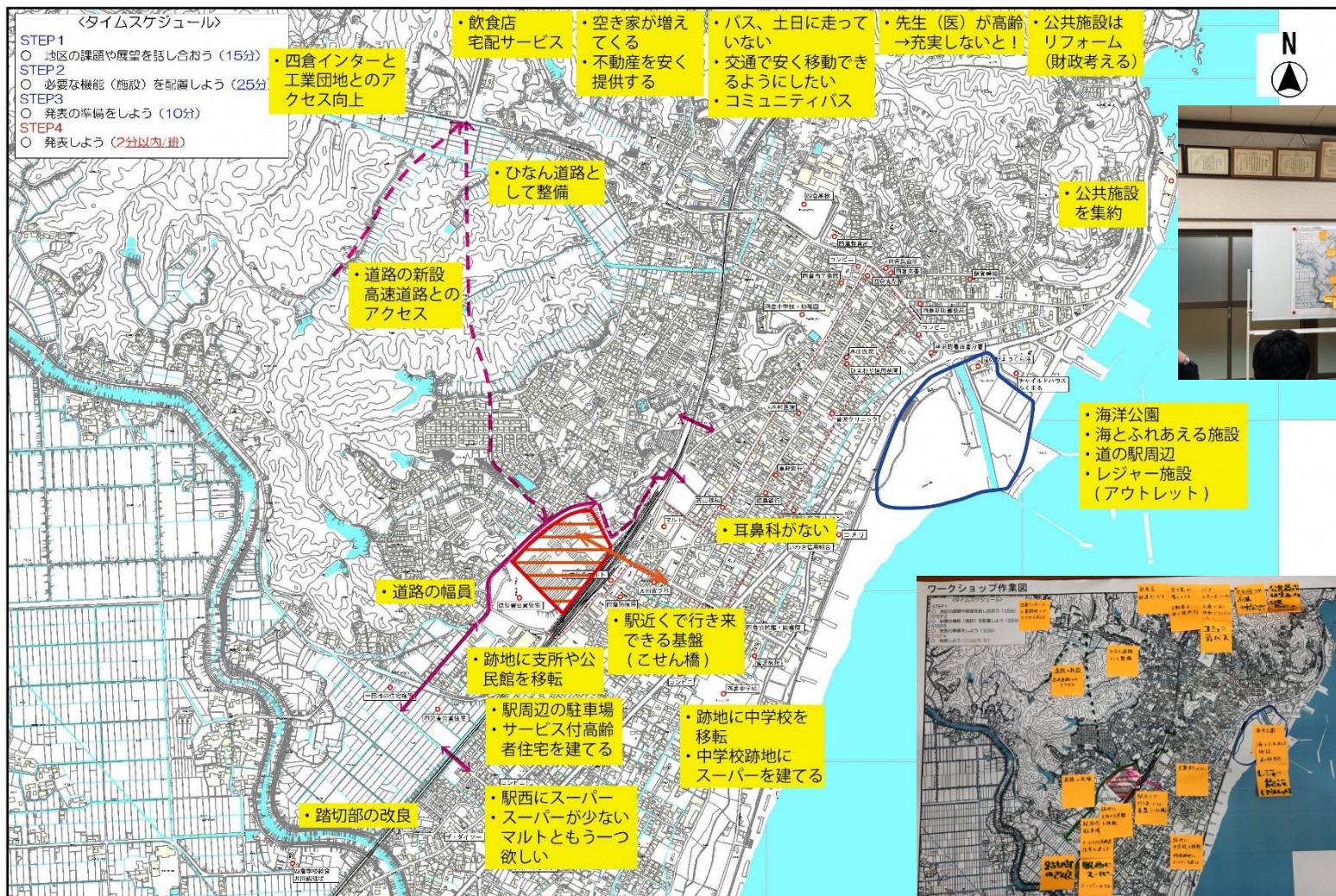
【その他】

- 駅前に使いにくい**小規模な駐車場が点在**していることから、**立地の再編**を検討。
- 郊外は若者が、駅前は高齢者が住みやすいまちづくりを展開する。
- 南部地区全体で考えれば、高齢者を手厚くサポートするシステムを構築し、人が訪れたくなるようなまちを目指したい。
- **公民連携のまちづくり**は重要である。
- **デマンド交通の充実**を図る。
- **植田駅の特急停車**を望んでいる。

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議）

(A班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議）

(A班)

東西アクセスの改善

- 国道6号線へのアクセス道路の整備が最重要課題

駅裏の改良

- 高齢者住宅、スーパー、公共施設（支所、公民館）、学校等の機能を集約化

駅裏改良に伴う施設、跡地の有効活用

- リフォーム、再利用等によるスーパーや医療機関としての活用

↓
【医療機関の整備にあわせて】

- 医療機関の先生が高齢化してきているため、若い先生の斡旋
- 四倉にない耳鼻科等の医療機関の誘致

【その他の意見】

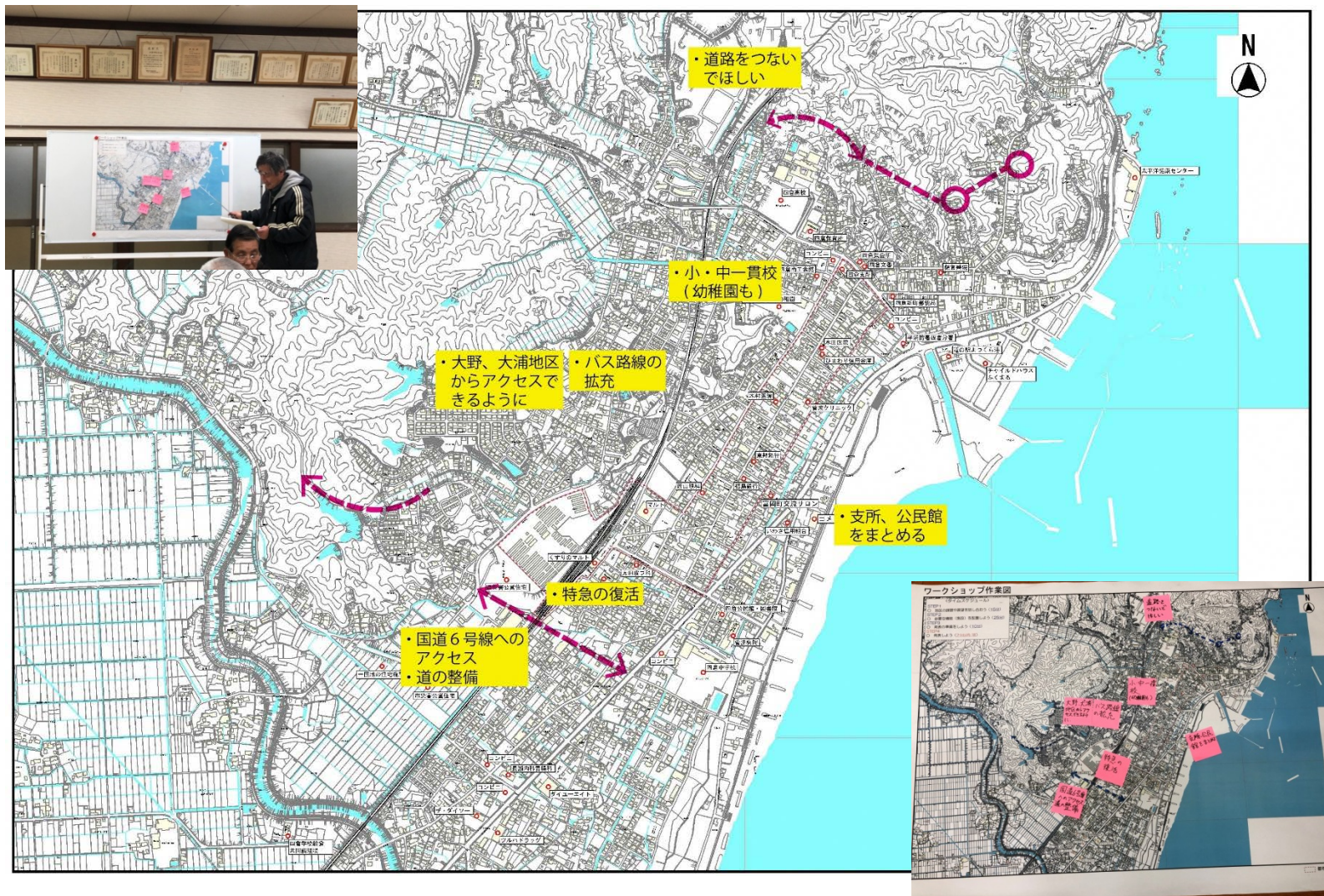
- 【海を活用】 ● 海洋公園、海と触れ合える施設、レジャー施設等を整備できればもっと活気が生まれる

- 【高齢者対応】 ● 街なかの幹線道路を拡張（工業団地から駅裏やI.C.に抜ける道路等）
● 高齢化に伴うコミュニティバス（安く、もしくは無料）の循環
● 宅配サービスの構築
● 空き家の状況把握 → 不動産の斡旋により、若者や高齢者に提供し（安く、もしくは無料）、空き家の解消を図る

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議）

(B班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議）

(B班)

アクセス道路の改善

- 鉄道を挟んだ東西のアクセスがしにくい

公共公益施設の再編

- 支所・公民館の建替え（駐車場の確保）
- 小中学校の再編

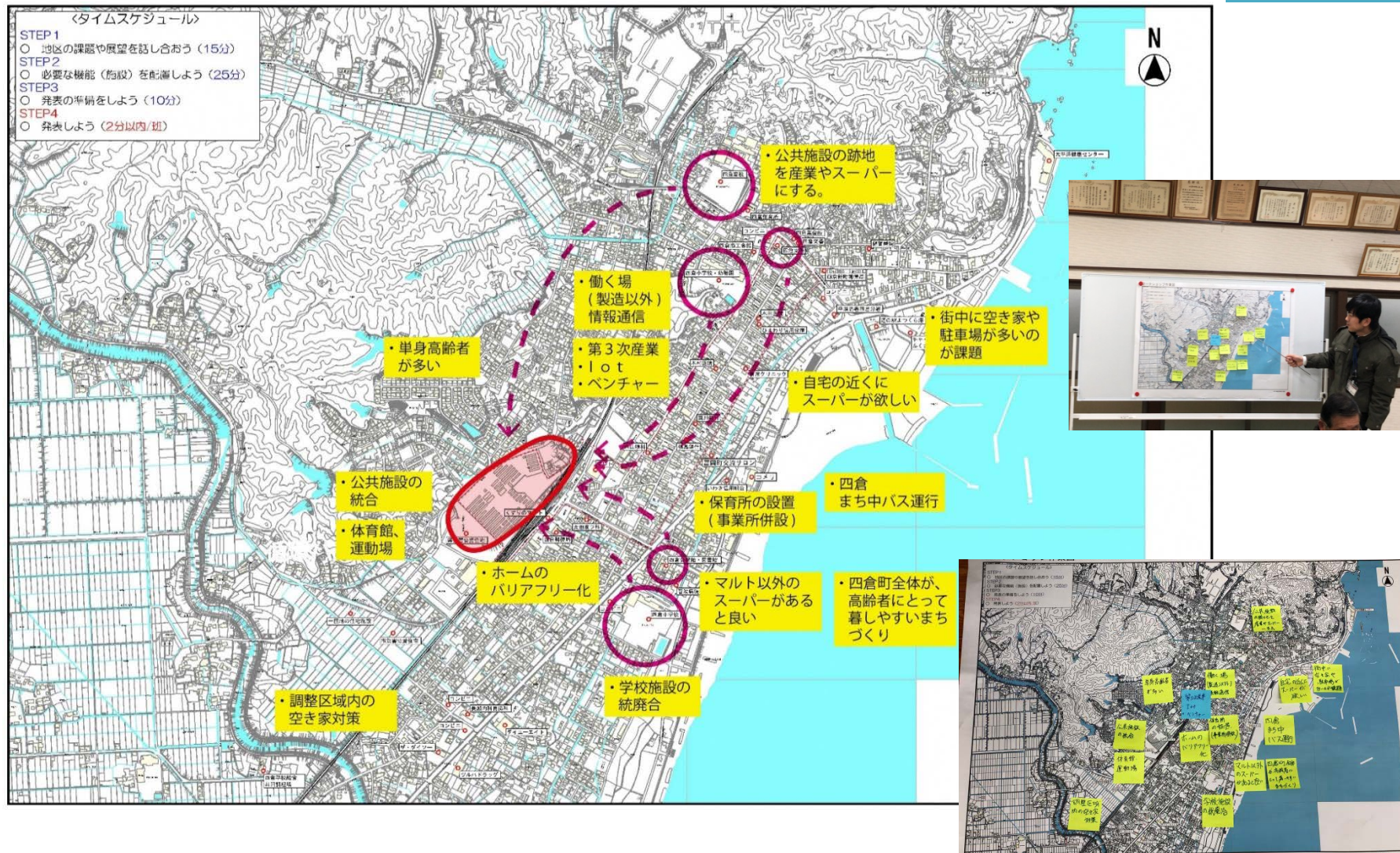
公共交通の利便性向上

- 今後バスをどのように利用していくのか、検討することが緊急の問題
- 四ツ倉駅は緑の窓口がなくなったため、いわき駅に行かないと特急券が購入できない
- 四ツ倉駅はsuicaが使用できない

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(6) ワークショップでの主な意見 (四倉ふれあい市民会議)

(C班)



1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等



(6) ワークショップでの主な意見（四倉ふれあい市民会議）

(C班)

仮設住宅跡地の有効利用

- 公共施設（四倉中学校、四倉小学校等）を集約させると便利になる
- 若い人達の働く場やスーパーを誘致する（現在はマルトしかない）
- 高齢者や地区住民のための体育館や運動場の整備

街なかの空き家の解消

- 市街化調整区域を含めた柔軟な対応（まちなかの空き家や駐車場が特に多い）

コミュニティバスの運行

- 有料だと乗らないので無料で運行

【その他の意見】

- 【働きやすい環境づくり】 ● 働く場所に併設した保育所の設置

【高齢者対応】

- 高齢者にとって暮らしやすいまちづくり（街なかだけでなく四倉全体の問題）
- 四ツ倉駅ホームのバリアフリー化（高齢者にとって階段は厳しい）

1. 各地区まちづくり団体とのワークショップ等

(7) 各支所等で実施したポスター掲示の概要

ポスター掲示は、8月21日に開催した「第3回第二次いわき市都市計画マスタープラン等策定委員会」の検討内容等について、広く意見を募集するため、都市計画課窓口をはじめ、市内各12支所、中央台及び泉市民サービスセンターにポスターを掲示し、アンケートを実施（募集）したもの。

- 募集期間 : 平成30年10月5日（金）から 平成30年11月2日（金）まで
- 会 場 : 市内15会場
- 回答数 : 22



小名浜支所での掲示状況

(8) イオンモールいわき小名浜で実施したポスターセッションの概要

ポスターセッションは、各支所等で実施したポスター掲示同様、広く意見を募集するため、多くの市民が集積するイオンモールいわき小名浜において、職員の説明を交えながらアンケートを実施したもの。

- 開催日時 : 平成30年10月20日（土）午前10時から 午後5時まで
- 会 場 : イオンモールいわき小名浜2階（H&M前）
- 回答数 : 80



ポスターセッションの様子

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(1) アンケート調査の概要

アンケート調査は、一般市民各、まちづくり団体などを対象に実施した。

○ アンケート回答総数：183

【アンケート調査項目】

1 回答者の属性

- ① 性別[問1]
- ② 年齢[問2]
- ③ 職業[問3]
- ④ お住まいの地域[問4]
- ⑤ 家族構成[問5]
- ⑥ 居住形態[問6]

2 若い世代の就職先や職業等についての意向

- ⑦ 自分のこどもに（学生であれば自分が）将来、就職してほしい（学生であれば就職したい）職場の立地場所について [問7]
- ⑧ 自分のこどもに（学生であれば自分が）将来、就職してほしい（学生であれば就職したい）職種について [問8] ※複数回答
- ⑨ 就職先を選ぶ理由 [問9] ※該当サンプルが少ないため未記載
- ⑩ 自身が就職するとして、市内にあって欲しい企業 [問10] ※該当サンプルが少ないため未記載

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

- ⑪ 市内にあって欲しい、店舗や飲食店、企業、施設など [問11]
- ⑫ 住んでみたい居住環境（都市機能誘導区域、居住誘導区域、区域外、その他） [問12]
- ⑬ 今後、具体的に住みたい地区 [問13] ※複数回答
- ⑭ 住みたい地区に転居する際の不安や課題 [問14] ※複数回答
- ⑮ 今後の自動車社会からの転換についての意向 [問15]

4 これからの都市づくりについての提案 [自由意見]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

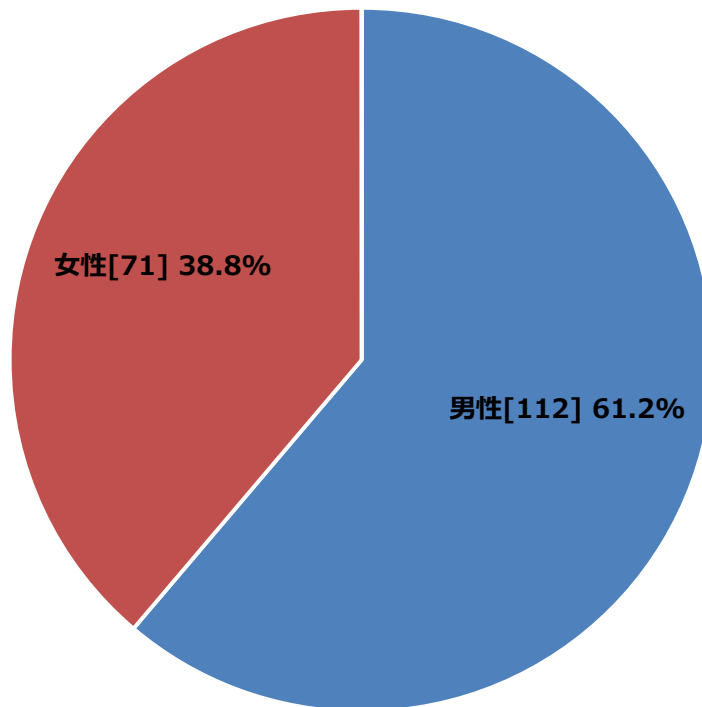


(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

① 性別（問1）

- 「男性」の割合が61.2%、「女性」が38.8%となっています。

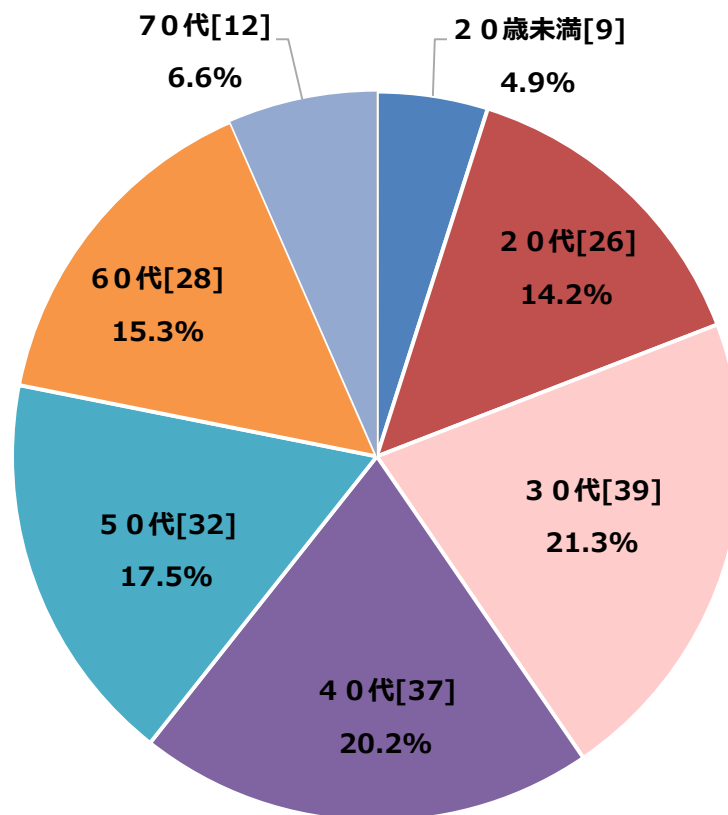


(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

② 年齢（問2）

- 「30代」が21.3%で最も高く、次いで「40代」が20.2%となっています。



2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

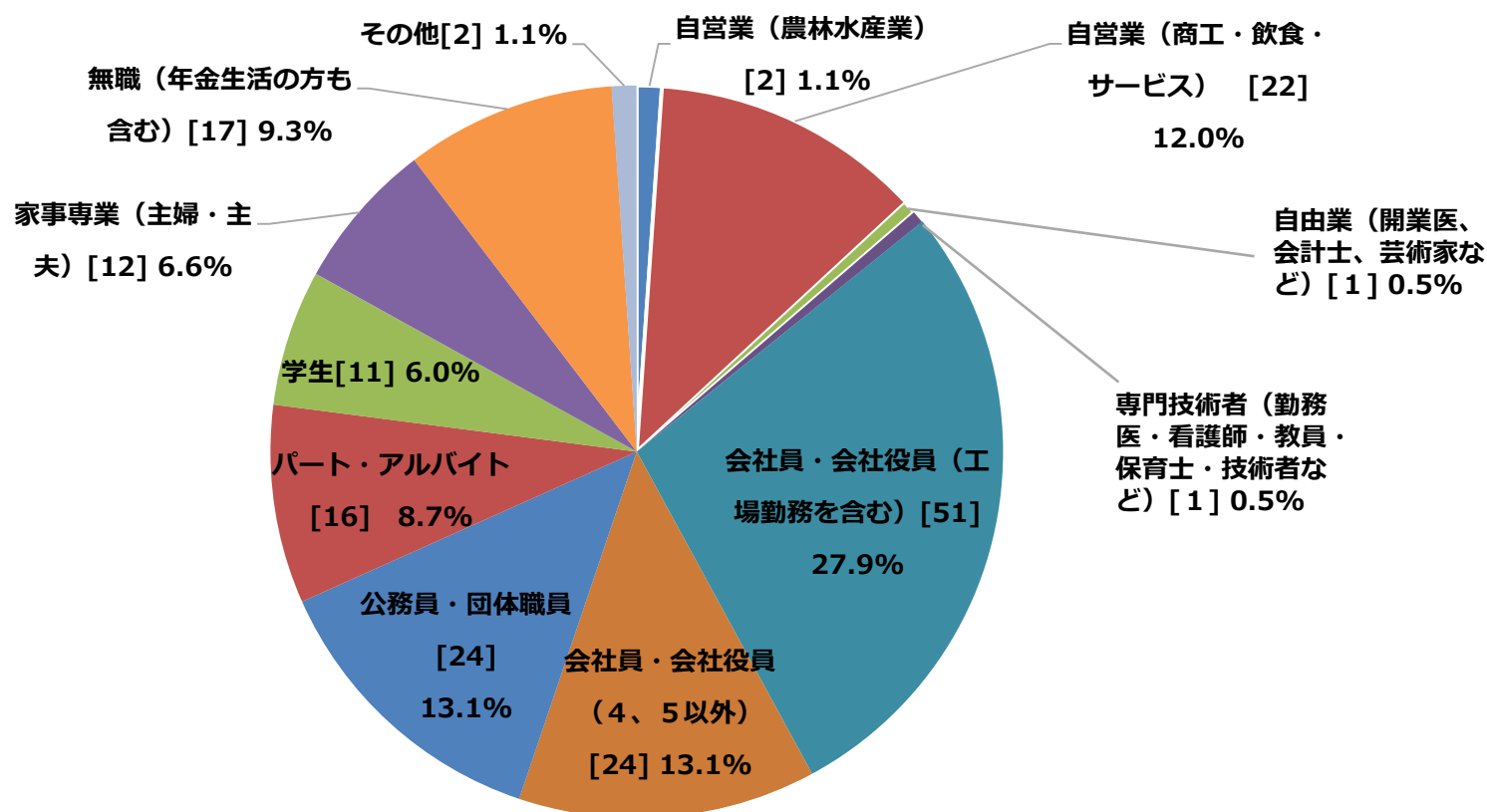


(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

③ 職業（問3）

- 「会社員・会社役員（工場勤務を含む）」が27.9%で最も高く、次いで「会社員・会社役員（専門技術者でない）」、「公務員・団体職員」が13.1%、となっています。



2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

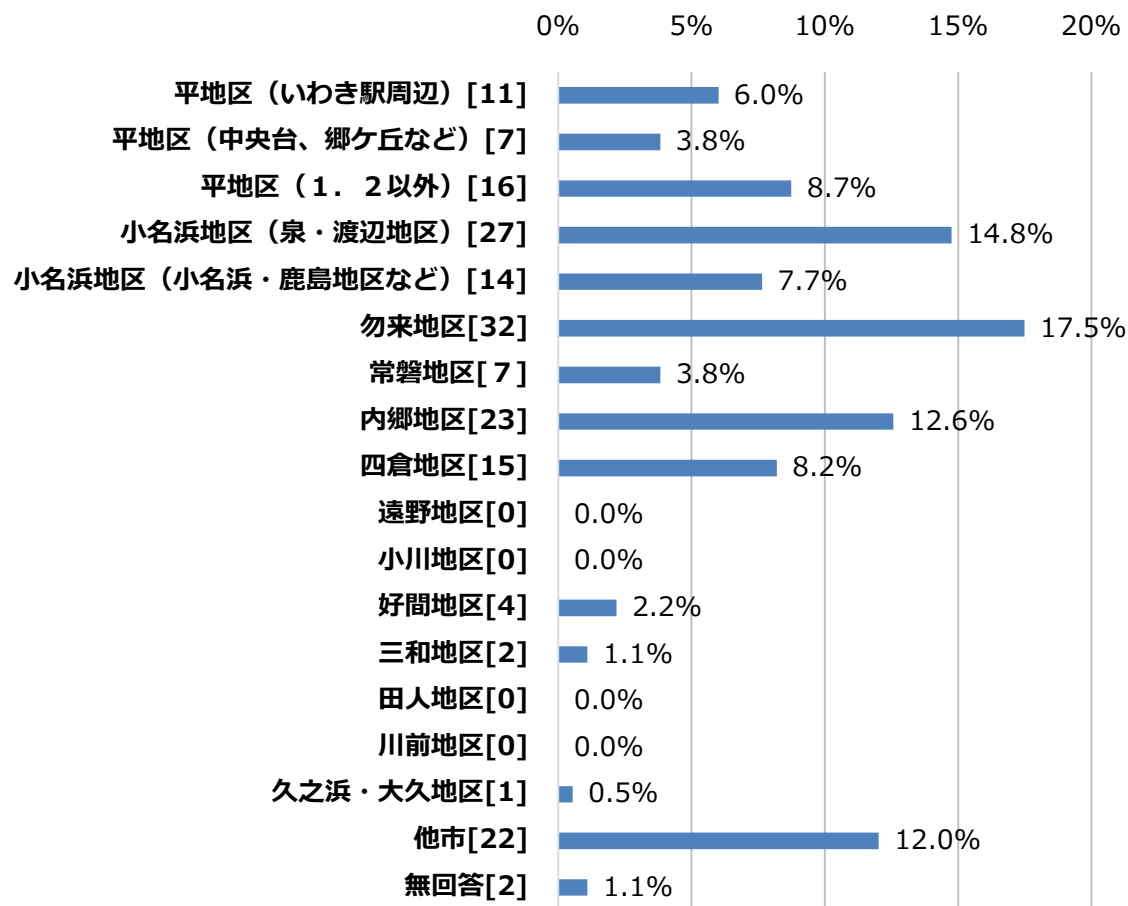


(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

④ お住まいの地域（問4）

- 「勿来地区」が17.5%で最も高く、次いで「小名浜（泉・渡辺地区）」が14.8%、「内郷地区」12.6%となっています。



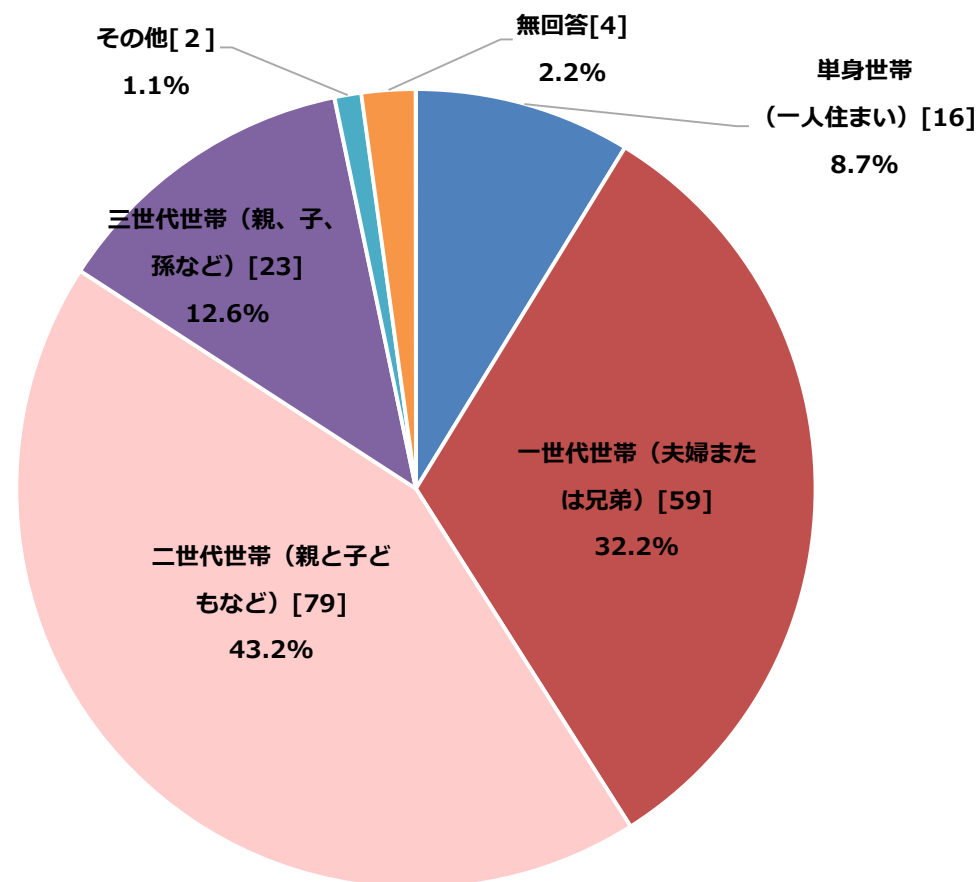
※ [] : 回答者数

(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

⑤ 家族構成（問5）

- 「二世世代世帯（親と子どもなど）」が43.2%で最も高く、次いで「一世代世帯（夫婦または兄弟）」が32.2%となっています。

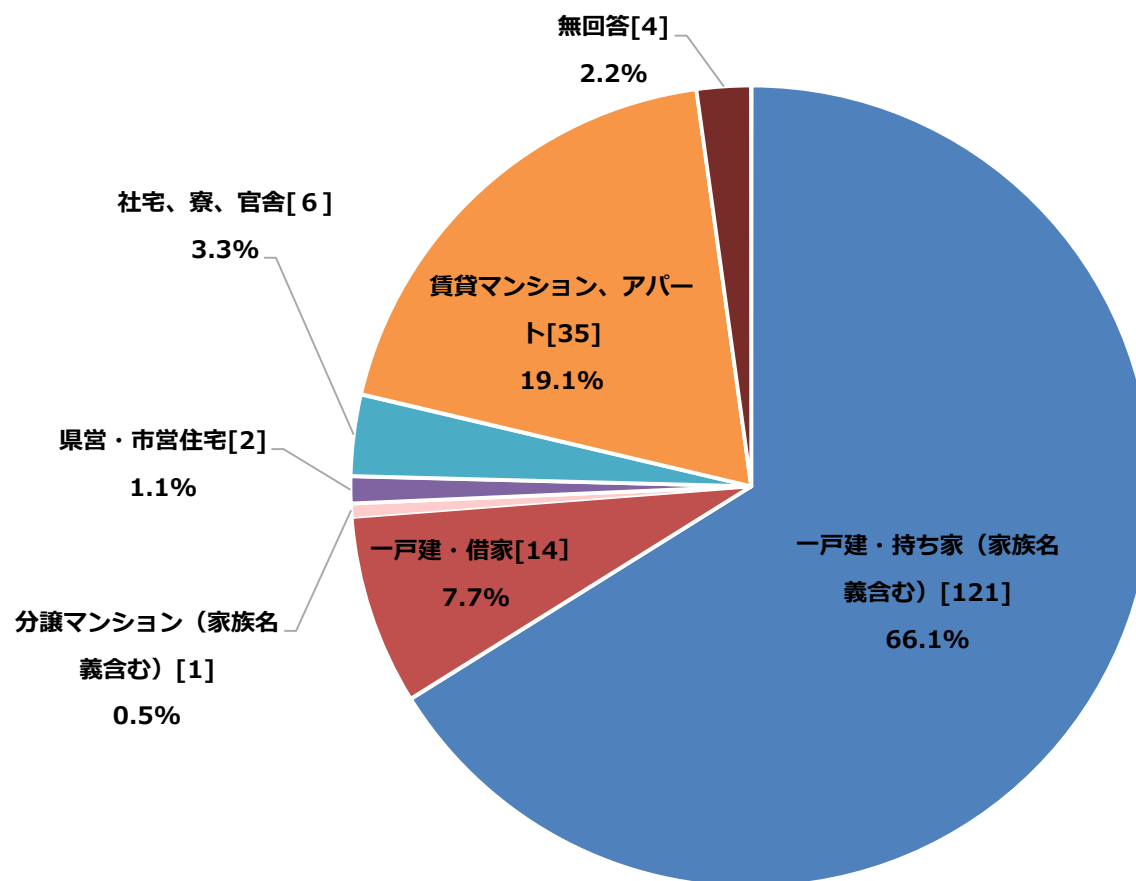


(2) アンケート調査の結果

1 回答者の属性

⑥ 居住形態（問6）

- 「一戸建・持ち家（家族名義含む）」が66.1%、次いで「賃貸マンション、アパート」が19.1%となっています。



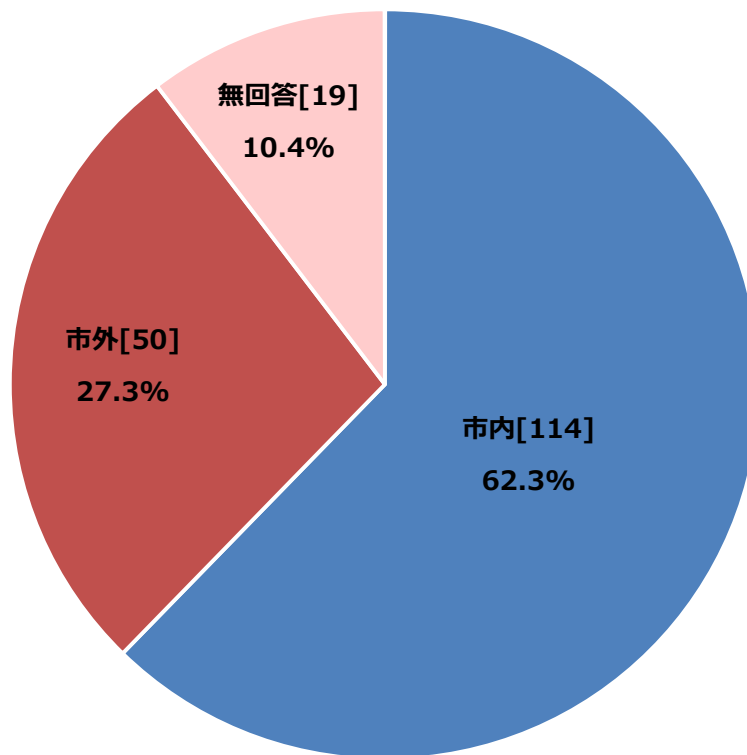
(2) アンケート調査の結果

2 若い世代の就職先や職業等についての意向

⑦ 自分のこどもに（学生であれば自分が）将来、就職してほしい（学生であれば就職したい）

職場の立地場所について（問7）

- 「市内」が全体の6割以上を占めており、回答者の年代層を勘案すると多くの親が、市内に就職してほしいと考えている結果になっています。



(2) アンケート調査の結果

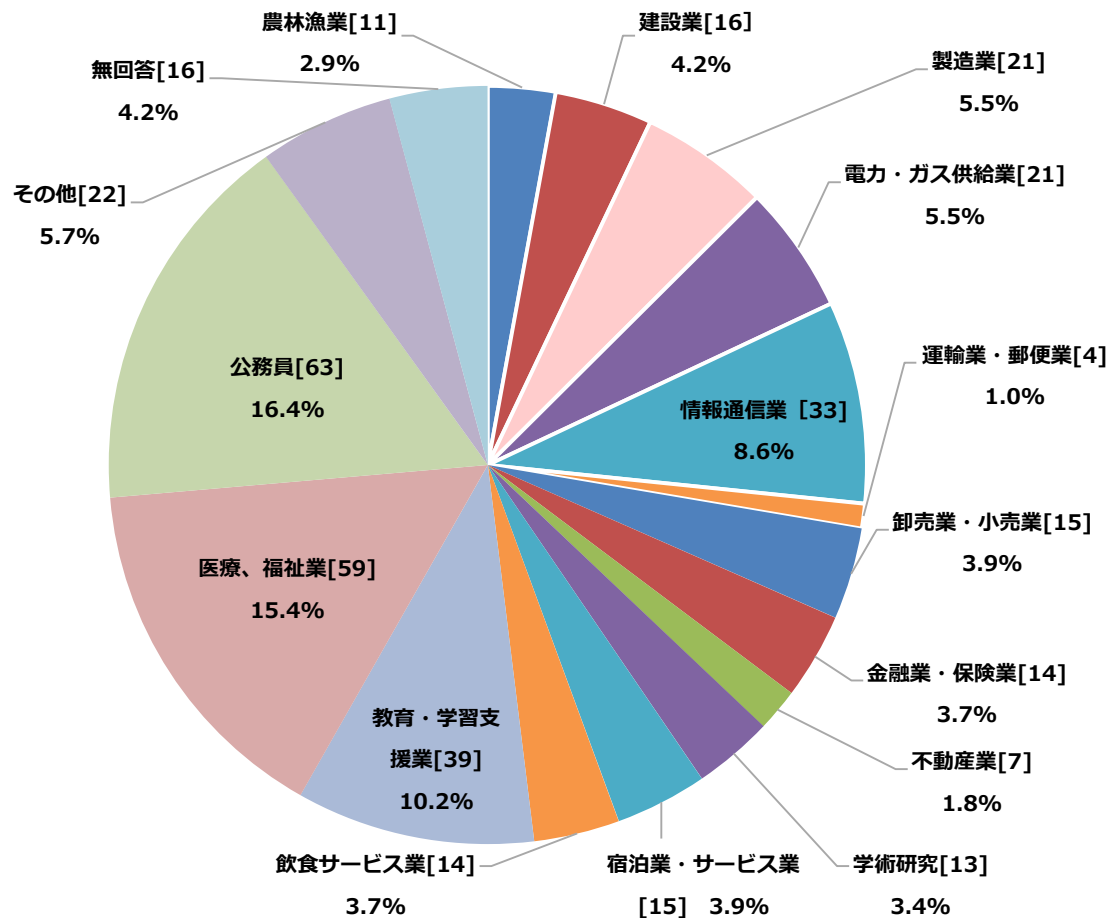
2 若い世代の就職先や職業等についての意向

⑧ 自分のこどもに（学生であれば自分が）将来、就職してほしい（学生であれば就職したい）

職種について（問8）※複数回答

- 「公務員」が最も多く16.4%、次いで「医療、福祉業」が15.4%となっています。

本市経済を牽引している製造業、建設業はそれぞれ5.5%、4.2%と自分のこどもに対する就職意向は、低い結果となっています。



2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑪ 市内にあって欲しい、店舗や飲食店、企業、施設など（自由記載）（問11） 1/2

事務・オフィス系

- ・ 楽天
- ・ 外資系企業
- ・ 仙台ターミナルビル

IT・エンジニア系

- ・ ロボット関連企業
- ・ Google
- ・ IT関連企業

販売・営業・飲食・サービス系

- ・ いわき駅周辺にファストフード、ファミレス
- ・ ラウンドワン
- ・ 日高屋
- ・ 東急ハンズ
- ・ デパート、アウトレットモール
- ・ コストコ
- ・ カラオケ店
- ・ スポーツクラブ（ジム）
- ・ ブックカフェ
- ・ 複合型商業施設
- ・ 成城石井
- ・ 日立グループの企業
- ・ ゴーゴーカレー、てんや
- ・ やよい軒、餃子の王将
- ・ コスメキッチン
- ・ 県内に無い店
- ・ 映画館（TOHOシネマ）
- ・ ゲームセンター
- ・ ビック
- ・ 三井不動産商業マネジメント(株)
- ・ 通販業者
- ・ レジャー施設
- ・ 屋台村
- ・ ZARA
- ・ オシュマンズ
- ・ くら寿司
- ・ CHIANTI
- ・ 金の目（ラムしゃぶ）
- ・ フレッシュネスバーガー
- ・ WEGO
- ・ PLAZA
- ・ 幸せのパンケーキ
- ・ ビュッフェ形式の飲食店
- ・ ペット専門ショップ
- ・ だがし屋
- ・ LUSH
- ・ CD・DVDショップ
- ・ アカチャンホンポ

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑪ 市内にあって欲しい、店舗や飲食店、企業、施設など（自由記載）（問11） 2/2

医療・介護・研究・教育系

- ・ 大学（看護系を含む国立、公立大学）
- ・ 医療がすぐ受けられる施設
- ・ 健康管理の施設、リハビリ施設を兼ねた健康増進施設
- ・ 学術研究機関
- ・ ポピンズナーサリースクール
- ・ キッズニア

工場・物流系

- ・ 自動車部品企業
- ・ 輸入関係企業

その他（公共的施設など）

- ・ mamaシエア
- ・ 子育てタクシー
- ・ 総合博物館
- ・ 遊園地
- ・ アリーナ、コンベンションホール
- ・ 小さい子どもがのびのび遊べる施設
- ・ バスケ、スケボーができる公園
- ・ 総合運動場
- ・ オリンピック基準等を満たすスポーツ施設
- ・ サバイバルゲーム施設（弘前市のようなもの）
- ・ 母親のサポート施設
- ・ サッカースタジアム
- ・ 幼稚園、図書館
- ・ コンベンションホール
- ・ 先進医療を導入している病院、救急病院
- ・ 総合型社会教育施設
- ・ 公共学習施設
- ・ 長距離フェリー
- ・ 複合型高層マンション
- ・ Wi-Fiスポット
- ・ 地下鉄
- ・ 学童施設
- ・ NPOフローレンス

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

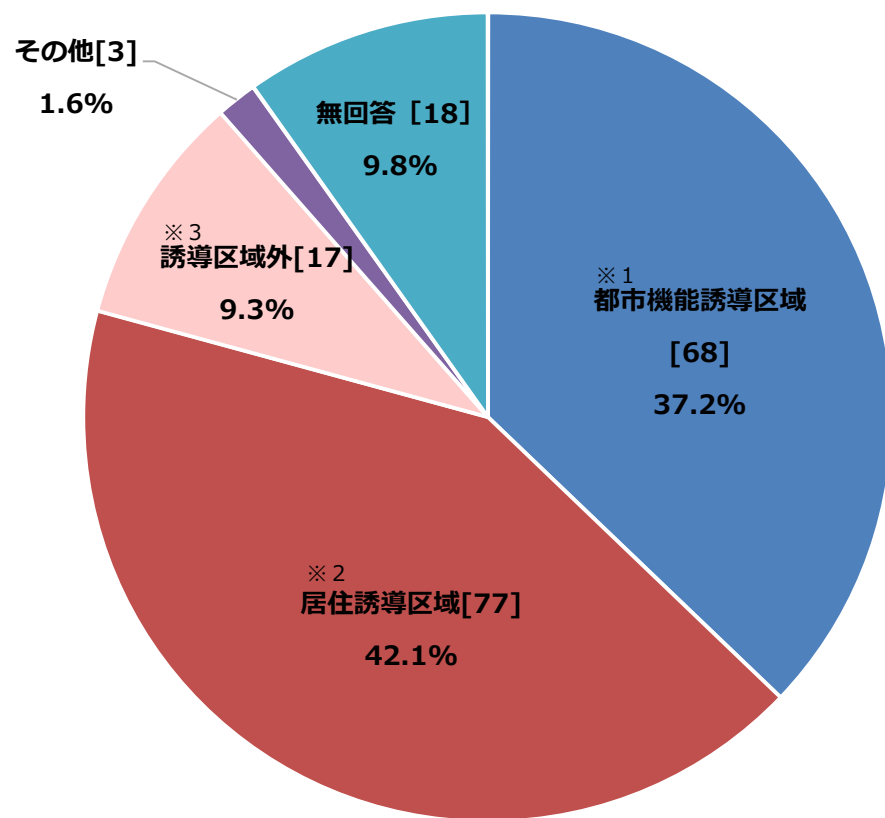


(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑫ 住んでみたい居住環境（都市機能誘導区域、居住誘導区域、区域外、その他）（問12）

- 「居住誘導区域」が42.1%で最も高く、次いで「都市機能誘導区域」37.2%となっており、回答者の約8割が、より利便性の高い居住空間に住んでみたい（住みたい）という結果になっています。



【アンケート設問上での選択肢の内容】

- ※1 居住空間は狭くなるが（マンション・アパート等）、駅周辺で公共交通が充実しており、医療・商業等の都市機能が集積している地区。
- ※2 ある程度の居住空間は確保できるが（戸建て）、駅から若干離れており、医療・商業等の都市機能の持つ地区へは、徒歩や自転車等での移動が必要となる地区。
- ※3 山や川などの自然や緑を身近に感じることができ、十分な居住区間確保できるが、駅からは離れており、医療・商業等の都市機能を持つ地区へは、バス等での移動が必要となる地区。

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

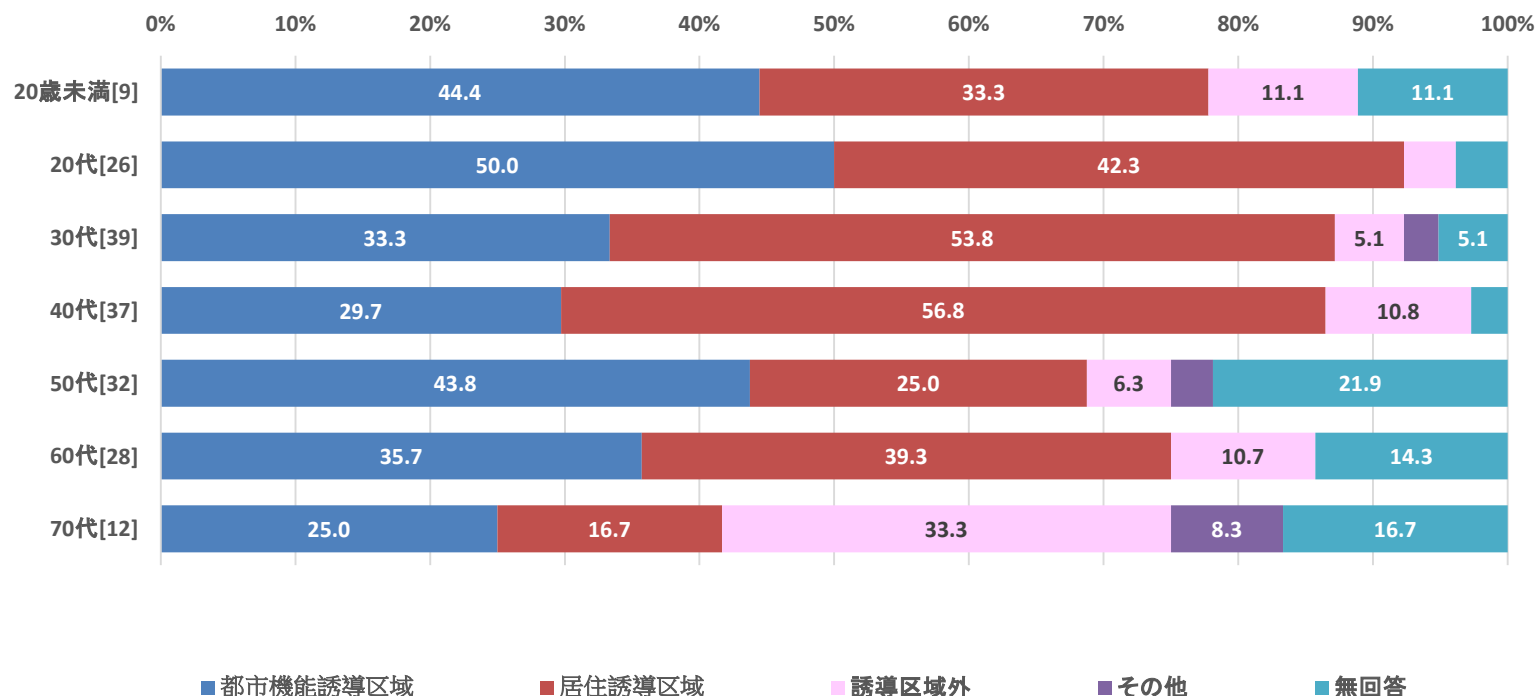


(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑫ 住んでみたい居住環境（都市機能誘導区域、居住誘導区域、区域外、その他）（問12）【年代別】

- 「20歳未満から60代まで」の年代では、概ね7割の方が、都市機能などが集積する利便性の高い居住環境に住んでみたい（住みたい）という結果になっています。
- 一方、「70代」の年代では、半数以上の方が、都市機能などの集積する利便性の高い居住環境よりも、ゆとりある居住環境に住んでみたい（住みたい）という結果になっています。



2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査

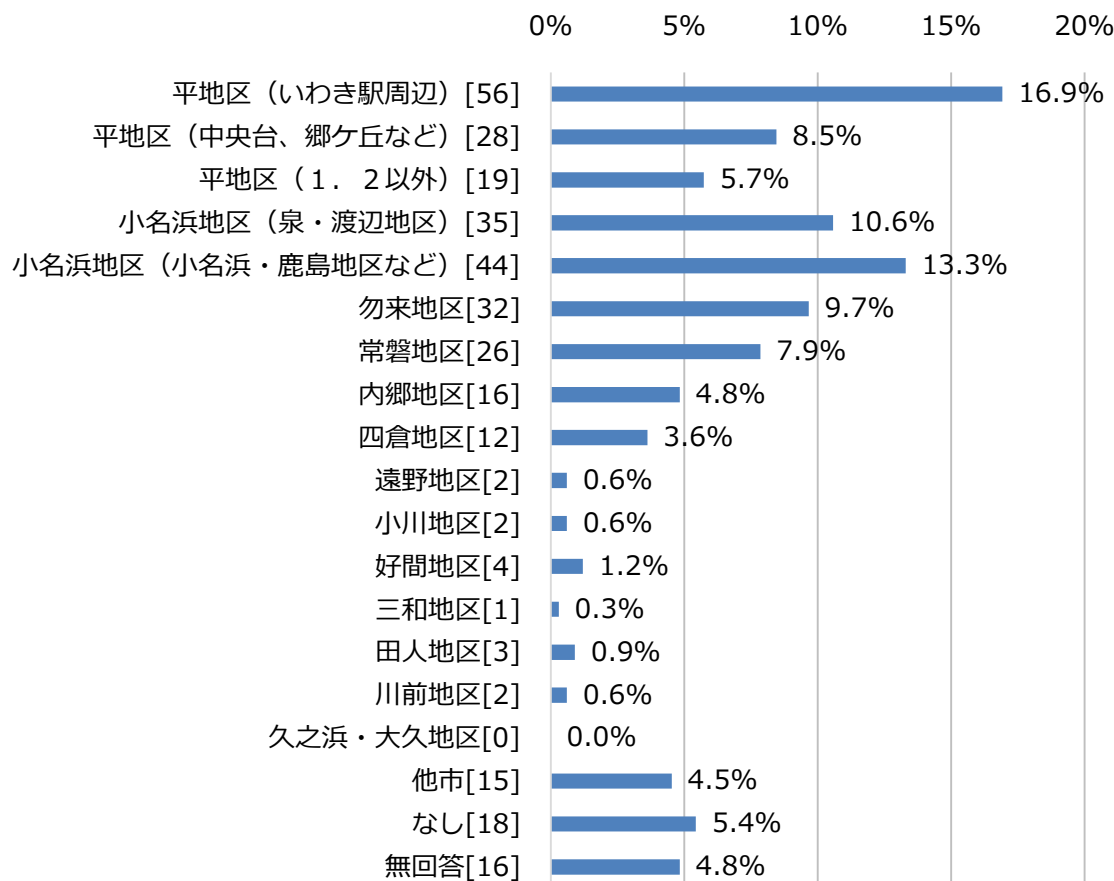


(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑬ 今後、具体的に住みたい地区（問13）※複数回答

- 「平地区（いわき駅周辺）」が16.9%で最も高く、次いで「小名浜地区（小名浜・鹿島地区など）」が13.3%、次いで「小名浜地区（泉・渡辺地区）」が10.6%、「勿来地区」9.7%の順となっています。



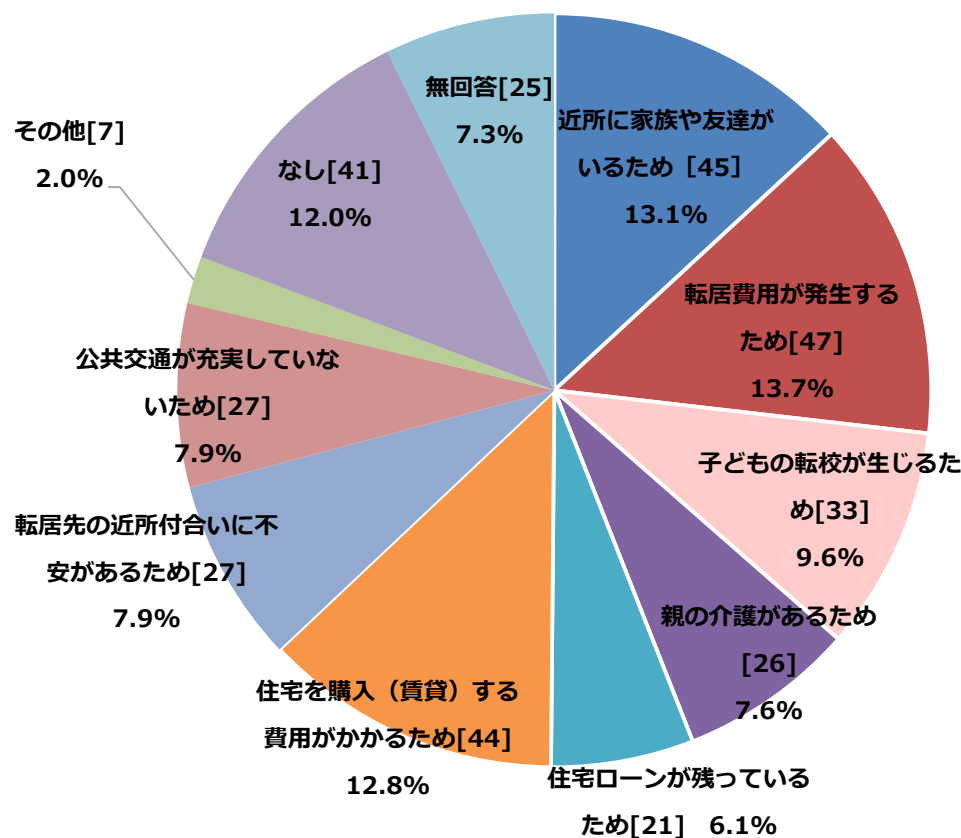
※ [] : 回答数

(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑭ 住みたい地区に転居する際の不安や課題（問14） ※複数回答

- 「転居費用が発生するため」が13.7%で最も高く、次いで「近所に家族や友達がいるため」が13.1%、「住宅を購入（賃貸）する費用がかかるため」が12.8%となっています。

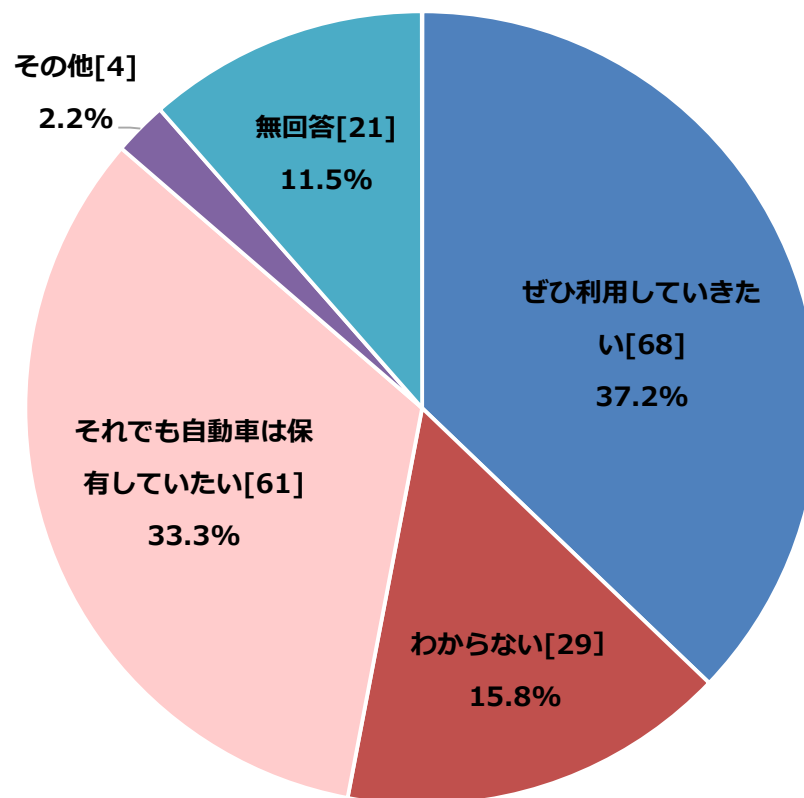


(2) アンケート調査の結果

3 今後の住生活における利便性や住環境等についての意向

⑮ 今後の自動車社会からの転換についての意向（問15）

- 「ぜひ利用していきたい」が37.2%で最も高く、次いで「それでも自動車は保有していきたい」が33.3%、「わからない」が15.8%の順となっています。



2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 1/6

分類	意見
ひと	● 従来の延長線上で人口減、高齢化に対して大丈夫なのか。実行プランが大切であり民間も含めて協力していく。 [50歳代 男性]
	● 若い人の市外流失防止だけでなく山も海も有しているいわきの資源の魅力をもっとアピールして、市外の方のいわき市への移住促進にもっと力を入れるべきではないかと思います。他都市ではシティ・マーケティング等を導入し、市の魅力向上を図ること、また、市域が広いという特色を活かし、多様な移住生活モデルをアピールしていくことにより、他都市との交流拡大を図っていくのも一つの方向性ではないかと思います。[50歳代 男性]
	● 子育て世代、一人暮らしの老人が住みやすい環境づくりが必要。（区画整理含めて）[50歳代 男性]
	● これからの複雑化・高度化する社会の課題解決に向けて、学びを還元できる都市として発展して頂きたい。 ➢ 特に喫緊の課題である学校教育の予算を大きく増額し、人員配置の充実、教育内容に関わる施設・設備の更新、整備など教育環境づくりに力を注いで頂きたい。 ➢ また、課外活動である「部活動」への「地域社会の多様な人材の活用」を実現すべく、統合型スポーツクラブ、社会教育施設の大幅なバックアップ、人材バンクの創設など、予算を計上頂きたい。[20歳代 男性]
	● 市内のみならず、県内外からの交流人口増加や市内への転居も進むような魅力ある政策を行って頂きたい。[40歳代 男性]
	● リサイクルプラザクリンピーの家は環境教育にすばらしい施設だと思います。遠足や課外学習に利用してもらえたらよいのではないかと。[40歳代 女性]
	● 子どもやご老人の方も安心して暮らせるような事を考えていくと良いと思う。[20歳未満 男性]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 2/6

分類	意見
まち	● 街灯がほしい。（市役所周辺）[30歳代 女性]
	● 電車や路線バスの本数を多くしてほしい。[20歳代 男性]
	● 居住誘導区域の設定にあたっては、これまでいわき市が実施してきた政策の連続性を考えると、既に事業が実施された土地区画整理事業や地区計画により開発された住宅地は、居住誘導区域に設定すべきと思います。[50歳代 男性]
	● いわき市は広域なこともあり、移動手段の一つとして、デマンドオンタクシーや自動運転車の導入についても先進事例の都市の状況、技術開発見通し等の研究を進めた方がよいのでは。
	● 都市機能誘導区域や居住誘導区域以外に家を構えていらっしゃる市民の中には、先祖代々の土地であったり、居宅を移せない事情をお持ちかもしれず、そのような方でも、これらの交通手段があれば高齢になっても安心して暮らせる社会が到来する可能性もでてくるかもしれないと思います。[50歳代 男性]
	● 再開発、小中高の統合など、まちの中心部に戻すことで学生が集まる。人が集まる仕組みをつくってほしい。F Cサッカー場は必ず小名浜へ。[50歳代 男性]
	● 勿来方面（植田方面）にファミレスがなく、実家（植田）の時に外食に困る。食品（ファミレスetc）を充実させてもらいたい。[30歳代 女性]
	● 千葉の一宮のような海を活かして楽しそうなまち。何でもありではなくてもいいので、何かに特化してオンリーワンで他地区からも住みたいと思って頂けるまち。サーフシティなんかはいいのでは？[50歳代 男性]
	● J Rを利用し、人の交流がスムーズに行われるよう J Rを都市の背骨のように活用する都市づくりが必要と考える。[70歳代 男性]
	● 税金・アパート代・土地代が高すぎる。[20歳代 女性]
	● 若者向けファッション店などを作ってほしい。[20歳代 女性]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 3/6

分類	意見
まち	● 山間地域における人口減少への歯止め、居住人口の増加を図るべく、生活インフラや交通インフラの整備、各地区をつなぐ交通インフラネットワークの構築など生活圏の再生にもご尽力頂きたい。[20歳代 男性]
	● 居住面では特に、買い物先等の店舗が乏しいと感じる。イオンモールの開業は魅力ある施設として成功していると思う。半面、デパートや百貨店、いわき市近辺には見られない店舗のある水戸・ひたちなか周辺や郡山への買い物客の流出がある。百貨店やコストコ、アウトレットモール、都市部にある成城石井（スーパー）など、「近隣になく人々が行ってみたい」と思える店舗が必要ではないかと思うし、それらの人々を呼び込むことで、市内はもとより県内外からの集客が大幅に伸びると思う。[40歳代 男性]
	● 平市内では、並木通り再開発の話を聞くと、大規模都市にみられる商業施設やフィットネス施設、展望台とホテルやマンションが一体化した高層複合ビルの存在を望みたい。平市街のランドマークに相応しいし、居住人口密度向上や人々の交流の活性化が図れると思う。[40歳代 男性]
	● 小名浜周辺には観光施設が多くあるが、泉駅とのアクセスが悪い。貨物運搬に使われている泉－小名浜線を昔のように貨客列車に利用してはどうかと思う。東京近郊から電車で来る人々がアクセスしやすくなり、観光客増も期待できる。また、現在整備中の小名浜東港の観光利用も期待したい。[40歳代 男性]
	● 錦東小から錦中までが暗いので、外灯を付けてください。[20歳未満 女性]
	● 植田駅まで自転車で通学できるように自転車が安心して通れる歩道を作ってください。[20歳未満 女性]
	● イオン小名浜でイオンモールウォーキングというように歩かせる取り組みをしているが、日常的に歩けるようにしてほしい。歩くこと、自転車に乗ることは健康に良いし、将来の介護保険費の抑制になります。小・中・高生に万歩計を持たせ、日頃どれだけ歩いていないか理解させたほうがよい。[20歳未満 女性]
	● 道路周囲に商店等を誘致して夕方でも少し歩けるようにしてほしい。外灯が少なすぎて危険です。少なくとも中学生の部活の車で送り迎えがいらぬくらいの明るさがほしい。[30歳代 女性]
	● いわきは、平地区にいろいろな面で集中しすぎだと思うので、うまく分散すれば良いと思う。[40歳代 女性]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 4/6

分類	意見
まち	● 長年、勿来地区に住んでいます。不満は特にありませんが、病院が少ないというところが少し考えるところがあります。[40歳代 女性]
	● 夜間の救急病院を増やしてほしい。[50歳代 男性]
	● 緑が多い町にしてほしい。海岸沿いが堤防ばかりで海が見えないので、海沿いの施設を整備してほしい。[30歳代 女性]
	● 安全で安心できる都市にしてほしい。[20歳代 女性]
	● 箱物ありきではないですが、勿来支所を移転することによっての再開発は必要と思える。[60歳代 男性]
	● 植田町をコンパクトシティ化するには？ J R 植田駅に特急を停めること。[60歳代 男性]
	● 交通手段の多様化が重要と考える。[60歳代 男性]
	● 車がないと行けないような場所に店などが無秩序にできて一方で公共交通の往来の多い場所や各駅の周辺には空き家、空き地が目につくので、そうした点を改善していただくと自分のような車を持たない者でもより生活しやすくなると思います。[40歳代 男性]
	● 天神岬のような大きい公園がほしい。[30歳代 女性]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 5/6

分類	意見
しごと	● 二次・三次産業の活性化にあたっては、市外企業の誘致ではなく、起業による新たなビジネス創出の支援（人材育成含む）という産業創出にも取り組んでいく必要があると思います。[50歳代 男性]
	● 労働面では多様な企業が市内に存在するが、日立のような総合電機メーカーや、トヨタ、日産等自動車会社のグループ企業の誘致、バッテリーバレーを目指すのであれば既存電池メーカー企業の増設を推進し、労働人口の増加・既存企業の更なる活性化を図ってはどうか。[40歳代 男性]
	● 小名浜港については、重要港湾の機能を更に拡充するために、フェリー航路の設置や観光船の寄港誘致、石炭だけでなく貨物類の輸出入機能の増強も図ってはどうか。（私の勤務先の電池材料は現在、横浜港まで陸路運搬し、船便で北米に輸出している。物流に苦慮している同様の企業は市内に複数あるだろうし、市にとっても発展のチャンスロスになっている。）[40歳代 男性]
	● 住民同士が繋がれるようにAsMamaの子育てシェアやママサポが利用できるようにしてほしい。助け合える仲間がほしい。見つけたい。[40歳代 女性]
	● UNIQLO平店で職場体験ができるようにしてほしい。いわき市内の事業所でも職場体験ができるようにしてほしい。いわきには優れた企業がたくさんあるようだが、よくわからない。これから成長する企業かもしれないので、いわき市が働きやすい職場を紹介してはどうか。[40歳代 女性]
その他	● 生物のイベントをいわき市で開催してほしい。[20歳代 男性]
	● 立地適正化計画を策定したために、逆に郊外化が進むのではないかと懸念される ➢ 誘導区域内の地価上昇により、相対的に誘導区域外の地価が下落➡立地適正化計画では規制ではなく誘導であるため、開発に対して拘束力が弱い➡結果、誘導区域外で土地売買され開発が進むのではないかと考えられるのは税の不均一課税が誘導➡規制への転換ではないか（特に市役所職員はリスクを承知した上で事務を進めるべき）。[40歳代 男性]

2. 各まちづくり団体等を対象としたアンケート調査



(2) アンケート調査の結果

4 これからの都市づくりについての提案【自由意見】 6/6

分類	意見
その他	● 若者が集まるまちづくり・仕組みづくりが必要。[20歳代 男性] ● 今後のマスタープランには目標ビジョン展望が欲しい。[60歳代 男性] ● 県境北茨城市との連携を考慮した計画を考えてほしい。[60歳代 男性] ● コストを下げた計画と幸せに暮らせる生活環境整備を考えてほしい（医療・学業：レベルUP）。[60歳代 男性] ● 各地域の都市計画マスタープランに対する考え方を十分考慮してほしい。[60歳代 男性] ● 次世代のために「人とまちが輝く煌めきある都市」を目指して頑張してほしい。[60歳代 男性] ● これからの複雑化・高度化する社会の課題解決に向けて、学びを還元できる都市として発展して頂きたい。 ➢ 特に喫緊の課題である学校教育の予算を大きく増額し、人員配置の充実、教育内容に関わる施設・設備の更新、整備など教育環境づくりに力を注いで頂きたい。 ➢ また、課外活動である「部活動」への「地域社会の多様な人材の活用」を実現すべく、統合型スポーツクラブ、社会教育施設の大幅なバックアップ、人材バンクの創設など、予算を計上頂きたい。[20歳代 男性] ● 老若男女すべての世代にやさしいまちを希望します。[50歳代 男性] ● ハード面での整備より環境の整備を[60歳代 女性] ● 自分が学生だった頃と比べても急激に良い方向へと変化していると思います。いわきの良い部分を残しつつ、さらに住みやすい町になっていけばと考えます。[20歳代 男性]
	● 全市的なまちづくりだけではなく、各地区を配慮した小さなまちづくりの視点もマスタープランに位置づけるべきと考える。